

出典：Benesse 教育研究開発センター

「第2回 子ども生活実態基本調査」(平成22年5月)

第2回子ども生活実態基本調査

調査概要

1. 調査テーマ

小学生・中学生・高校生の生活に関する実態や意識をとらえる

2. 調査方法

学校通しの質問紙による自記式調査

3. 調査時期

第1回(2004年調査) 2004年11月～12月

第2回(2009年調査) 2009年8月～10月

4. 調査対象

小学4年生～高校2年生

【小学生】2004年調査：4,240名(21校) 2009年調査：3,561名(18校)

【中学生】2004年調査：4,550名(13校) 2009年調査：3,917名(12校)

【高校生】2004年調査：6,051名(13校) 2009年調査：6,319名(13校)

【合計】 14,841名 13,797名

なお、本文中の「小学生」は小4生～小6生、「中学生」は中1生～中3生、「高校生」は高1生～高2生を指している。

5. サンプルの抽出方法

市区町村の人口密度および人口規模を考慮した有意抽出法

2004年調査では、調査対象者が生活する都市の規模によって回答に偏りが生じないようにするため、あらかじめ市区町村の人口密度と人口規模を考慮した3つの地域区分を設定し、調査地域が全国に散らばるようにサンプリングを行っている。

具体的には以下のような方法を採用している。

- ・市区町村の人口密度と人口規模を考慮して、以下の3つの地域区分を設定。
「大都市」(東京都内)「中都市」(中規模都市:人口密度が中/人口規模が20～30万人程度)
「郡部」(町村部:人口密度が低/人口規模が1～2万人程度)
- ・各地域区分に該当する市区町村のなかから、ランダムに複数抽出。
- ・抽出した市区町村から、さらにランダムに学校を抽出し、調査を実施。

今回の2009年調査では経年での比較や地域による違いをみるため、2004年調査と同一の学校に調査を依頼した。一部、調査対象校に入れ替わりがあるが、追加校については市区町村の人口密度や人口規模、高校については学校の入学難易度を考慮したうえで有意に抽出した。

6. グループインタビュー

時期：2010年1月

対象：小学生・中学生・高校生の男子・女子(6グループ)×3名(計18名)

質問項目：ふだんの生活、ふだんの親子関係(平日や休日に父親・母親と一緒に過ごす時間や状況、会話内容、一緒に外出する際の状況、理想の親子関係について)、現状の生活に対する満足度(子どもたちの満足・不満足の内容・基準について)、将来像(早く大人になりたいか、子どもにとっての大人のイメージ、どんな大人になりたいか、なりたい職業)

調査概要 / 分析枠組み

調査項目

起床・就寝時刻 / 食事のとり方 / 遊び場 / 部活動 (中・高校生のみ) / アルバイト (高校生のみ) / テレビ・ビデオ (DVD) の視聴時間 / ゲームの使用時間 / パソコンの利用 / 携帯電話の利用 / ふだんすること / 小さいころの体験 / 親との会話 / 親とのかかわり方 / 友だちのタイプと数 / 友だちとのかかわり方 / 自分自身について / 満足度 / なりたい職業 / 職業選びで大切なこと / 将来像 / 家事・育児の分担 / 進学希望 / 家での学習時間 / 学校外学習 / 学習の取り組み方 / 得意なこと・苦手なこと / 勉強する理由 / 成績の自己評価

サンプル数

小学生 (18校)	小4生	小5生	小6生	合計	(名)
大都市	341	387	321	1,049	
中都市	484	461	492	1,437	
郡部	328	353	394	1,075	
合計	1,153	1,201	1,207	3,561	

中学生 (12校)	中1生	中2生	中3生	合計	(名)
大都市	501	478	485	1,464	
中都市	457	481	415	1,353	
郡部	363	370	367	1,100	
合計	1,321	1,329	1,267	3,917	

高校生 (13校)	高1生	高2生	合計	(名)
大都市	1,163	1,085	2,248	
中都市	864	751	1,615	
郡部	1,243	1,213	2,456	
合計	3,270	3,049	6,319	

* 普通科のみ

小学生・中学生・高校生
合計サンプル数 13,797 名

報告書では、成績(自己評価)や高校偏差値層による分析を行っている。詳細は以下のとおりである。

成績：小学生は国語・算数・理科・社会の4教科について、中学生・高校生は国語・数学・理科・社会・英語の5教科について、成績の自己評価をそれぞれ5段階で回答してもらい、それらの結果を合計して、ほぼ3等分になるように「上位」「中位」「下位」を設定している。なお、2004年調査・2009年調査とも同じ得点で成績は区分されている。

高校偏差値層：高校生は学校自体の偏差値層による相違が大きいと思われるため、成績ではなく、主に高校偏差値層を分析に用いた(ただし、偏差値層と組み合わせて成績を用いた分析は行っている)。分類区分ならびに偏差値層ごとのサンプル数は以下のとおりである。

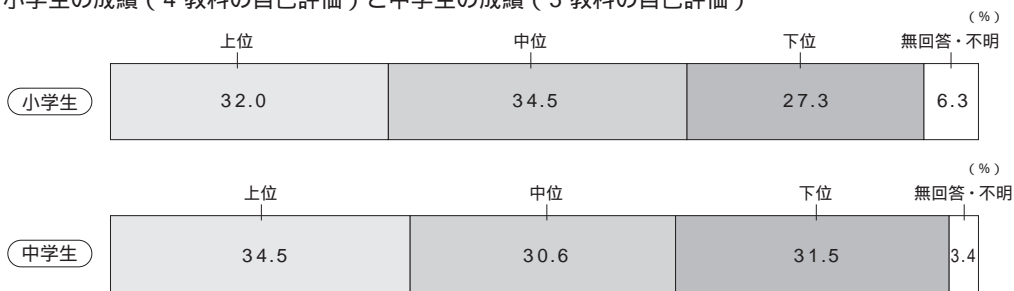
「進学校」...偏差値60以上目安、「中堅校」...偏差値50～59目安、「進路多様校」...偏差値50未満目安。

高校生 (13校)	進学校	中堅校	進路多様校	合計	(名)
大都市	1,244	574	430	2,248	
中都市	568	680	367	1,615	
郡部	1,164	902	390	2,456	
合計	2,976	2,156	1,187	6,319	

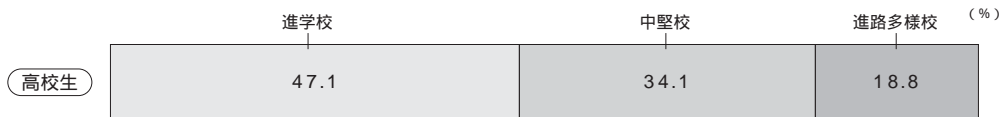
* 普通科のみ

成績ならびに高校偏差値層の各カテゴリーの割合は以下のとおりである。

小学生の成績（4教科の自己評価）と中学生の成績（5教科の自己評価）



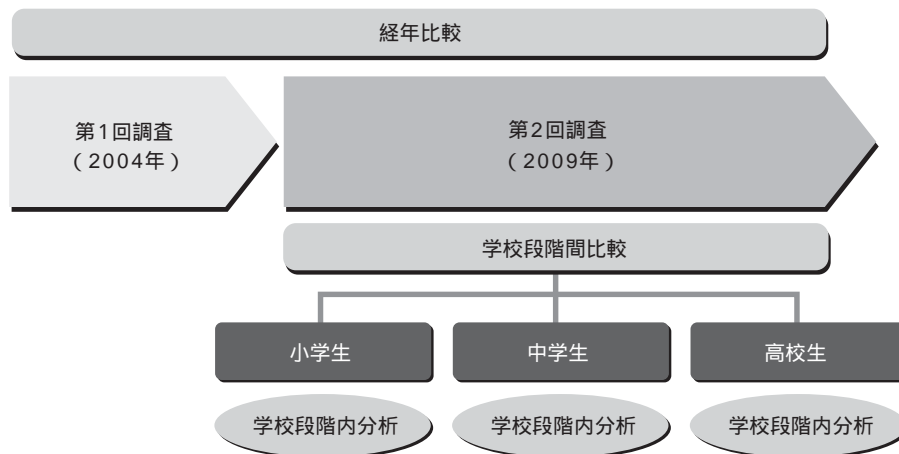
高校生の偏差値層



調査概要 / 分析枠組み

分析枠組み

本報告書では、小・中・高校生の各学校段階内での分析、および学校段階間の比較、2004年調査との経年比較によって分析を行っている。



第1節 現状についての意識

1. 生活満足度

2004年に引き続き、身近な人間関係や世界への満足度が高い。自分や社会への満足度は低めであるが、生活満足度は全般的に高まっている。成績別にみたとき、成績下位層が不満をためていることが気にかかる。

身近な世界に満足する子どもたち

子どもたちは自分の生活にどの程度満足しているのだろうか。「あなたは、次のようなことについてどの程度満足していますか」と、身の周りの世界に関する満足度をたずねた結果が図4-1-1である。2004年と比較して、高校生の「自分の性格」を除いたすべての項目で「とても満足している」+「まあ満足している」の割合が増加しており、子どもたちの生活への満足度が高まっていることがわかる。

なかでも、「家族との関係」「友だちとの関係」「学校の先生との関係」「自分が通っている学校」は3分の2以上の子どもが満足しており、身近な人間関係や身近な世界への満足度が高いことがうかがえる。大人への反発や学校への違和感を抱える子どもという像はもう過去のものとなったのかもしれない。

それに対して、「現在の自分の成績」や「自分の性格」への満足度は低く、学校段階が上がるごとに下がっていく。自分についての感度が高まる思春期が関係しているのかもしれない。それとも、学年が上がって現実を見つめるということだろうか。

また、「今の日本の社会」への満足度は、2004

年よりは上昇しているものの高くはない。

不満をためる成績下位層

2009年の結果を成績（小・中学生）・高校偏差値層（高校生）別にみたのが図4-1-2である。小・中学生では、「今の日本の社会」を除く各項目について、成績上位層に対して下位層のほうが、満足度が低くなっている。成績下位層が「現在の自分の成績」に満足していないのは当然にしても、成績と友だちや家族、地域への満足度が関係しているのである。成績が低いから他がうまくいかないのか、生活が充実していないから成績が悪いのかは一概にはいえないが、「自分の性格」の満足度について、成績上位層と下位層の差が小学生で20.4ポイント、中学生で14.7ポイントもあり、自尊感情に成績が影響を及ぼしているようである。

ただし、高校生では高校偏差値層別で集計すると、進路多様校で、学校や学校の先生、地域、日本の社会への満足度は低いが、成績への満足度はむしろ高くなっている。偏差値層別に学校が分かれることで、成績への不満は下がるようである。

なお、2004年調査で報告された生活習慣の影響については、7.5～8時間程度の適度な睡眠をとっていたり、適切な食事の習慣を持っていたりするほうが生活満足度が高くなる傾向が引き続きみられる。2009年では、睡眠や食事の習慣

に改善傾向がみられるが、それに応じて生活の満足度も全体的に向上しているといえる。

以下では、いくつかの項目について、それぞれの満足度の背景を探ってみたい。

図4-1-1 生活満足度（学校段階別、経年比較）

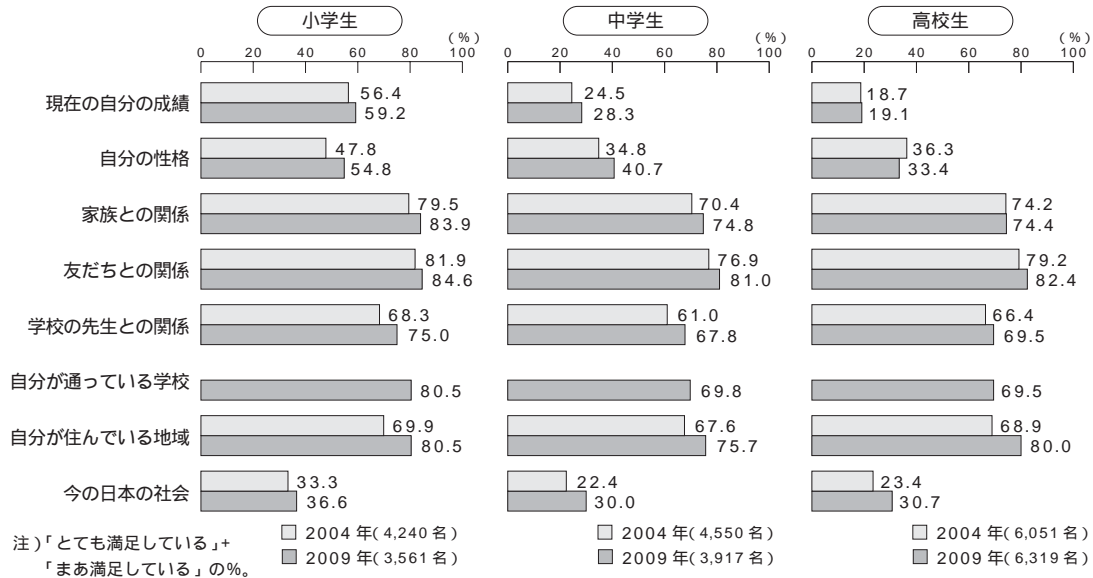
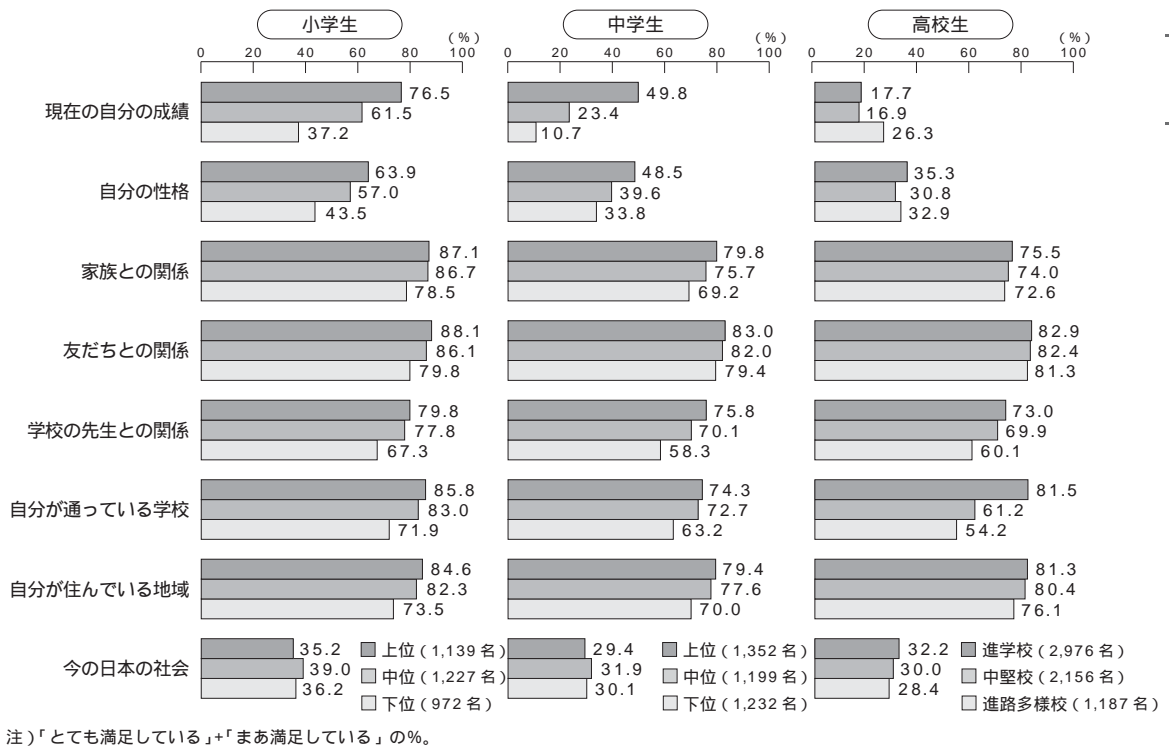


図4-1-2 生活満足度（学校段階別・成績/高校偏差値層別）



第4章 現状・将来についての意識

親子コミュニケーションが満足度を上げる？

まず、どのような家族との関係性が「家族との関係」の満足度を高めているのかをみる。

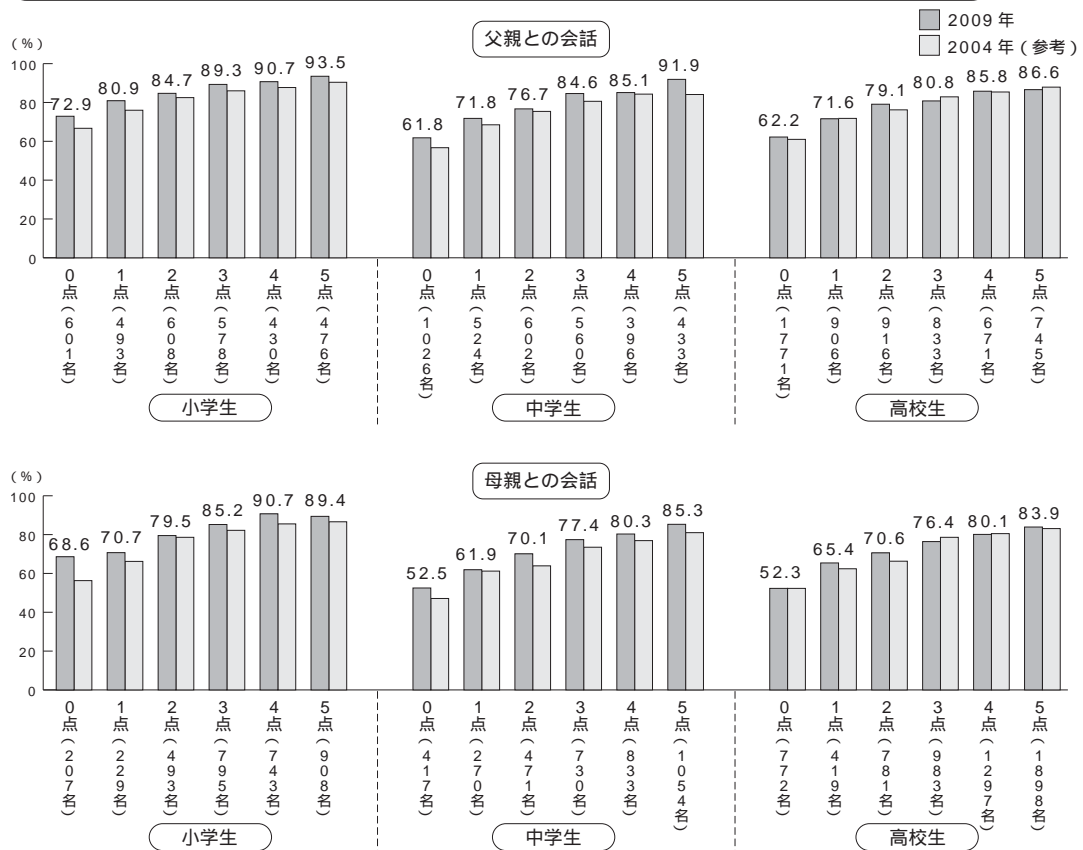
「あなたは次のようなことについて、お父さんやお母さんとどのくらい話をしますか」という設問で、「お父さんとの会話」「お母さんとの会話」それぞれについて、5つの項目（「学校のできごとについて」「勉強や成績のことについて」「将来や進路のことについて」「友だちのことについて」「社会のできごとやニュースについて」）に関する会話の有無をたずねている。父親、母親それぞれについて、「よく話をする」+「ときどき話をする」と答えた項目数を5点満点で点数化し、点数ごとに「家族との関係」に「とても満足している」+「まあ満足している」と答

た割合を示したのが図4-1-3である。点数が高く親子の会話が多いほど、家族との関係への満足度も高くなっている。

また父親との会話のほうで、会話が少ない場合も高い場合も満足度が高い。これは父親との会話が少ない家庭が多いなかで、会話が nhiều 場合はとくに満足するからと考えられる。逆に、母親と会話が少ない場合は、家族との関係の満足度が大幅に下がっている。母親との会話のほうがあるのが当たり前とされていて、少ないと不満をためやすいことがわかる。

ただし、2004年に比べると、会話が少ない層の満足度が高くなっている。家族に期待しなくなっているのかもしれないが、いずれにせよ、会話の量が満足度に与える影響が小さくなって

図4-1-3 父母との会話量別に見た「家族との関係」への満足度（学校段階別、経年比較）



注1) 「家族との関係」に「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2) 「父親との会話」「母親との会話」は、「学校のできごとについて」「勉強や成績のことについて」「将来や進路のことについて」「友だちのことについて」「社会のできごとやニュースについて」のうち、「よく話をする」または「ときどき話をする」と答えた項目の数を5点満点で点数化した。

注3) 図中のサンプル数および%は2009年のもの。

いるとはいえ、過度にコミュニケーションの重要性を強調することはできない。

過干渉や矛盾した働きかけは逆効果

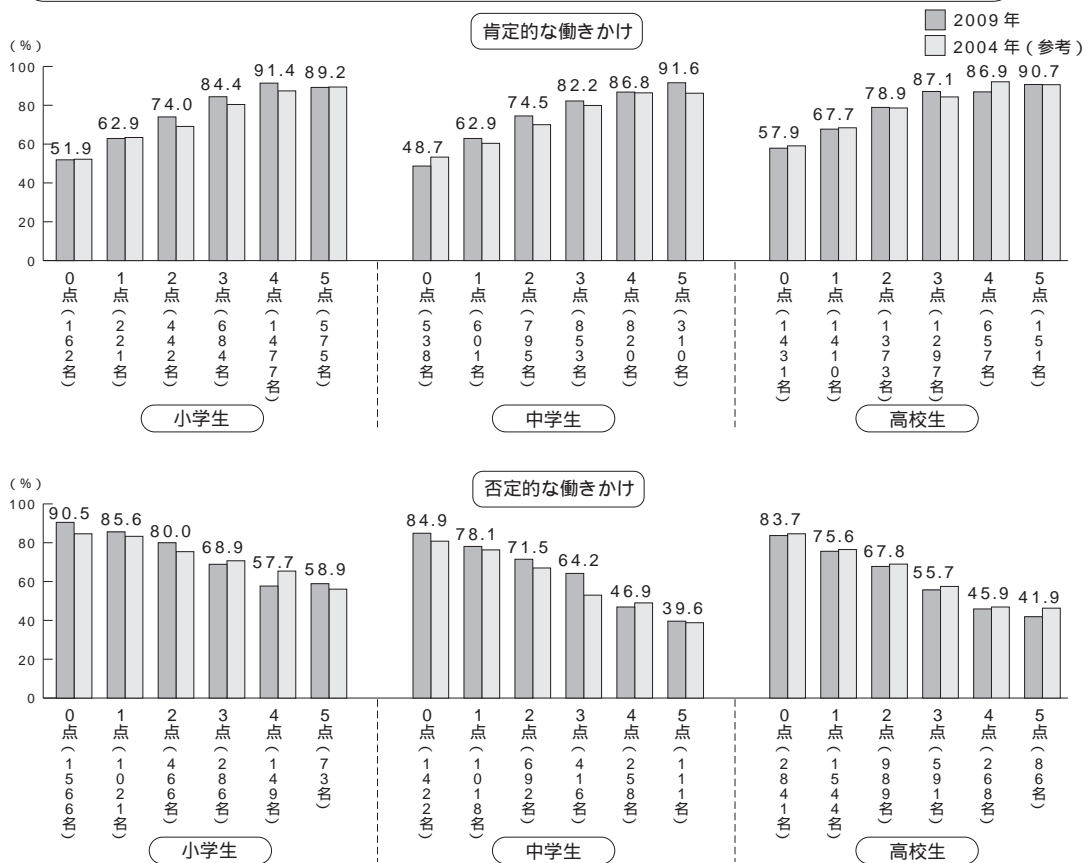
同様に、「親との関係について、次のようなことはあてはまりますか」(複数回答)という設問の回答傾向と「家族との関係」の関係のみたのが図4-1-4である。親の子どもへの肯定的な働きかけを表す「勉強を教えてくれる」「いいことをしたときにほめてくれる」「悪いことをしたときにしかってくれる」「困ったときに相談にのってくれる」「あなたのことを大人として扱ってくれる」と、否定的な働きかけを表す「いつも『勉強しなさい』と言う」「何でもすぐ口出し

をする」「約束したことを守ってくれない」「考えをおしつける」「お父さんとお母さんの意見が違って困る」の選択数を、それぞれ5点満点で点数化している。

親から子どもへの肯定的な働きかけは、多いほど満足度が高い。過干渉や矛盾した働きかけなどの否定的な働きかけは、多くなるほど家族への満足度が低くなっている。やはり、会話の量のみならず、関係性の質も「家族との関係」の満足度に影響しているといえる。

総じて、親子のコミュニケーションが質量ともに良好なほど家族との関係への満足度は高いといえる。

図4-1-4 親のかかわり量別にみた「家族との関係」への満足度(学校段階別、経年比較)



注1)「家族との関係」に「とても満足している」+「まあ満足している」の%。
 注2)「肯定的な働きかけ」は、「勉強を教えてくれる」「いいことをしたときにほめてくれる」「悪いことをしたときにしかってくれる」「困ったときに相談にのってくれる」「あなたのことを大人として扱ってくれる」の、「否定的な働きかけ」は、「いつも『勉強しなさい』と言う」「何でもすぐ口出しをする」「約束したことを守ってくれない」「考えをおしつける」「お父さんとお母さんの意見が違って困る」の選択数を5点満点で得点化した。
 注3) 図中のサンプル数および%は2009年のもの。

第4章 現状・将来についての意識

友だちは多いほど満足だが、少なくとも以前ほど不満に思わなくなっている
次に、友だちとの関係性と「友だちとの関係」への満足度の関係をみよう。

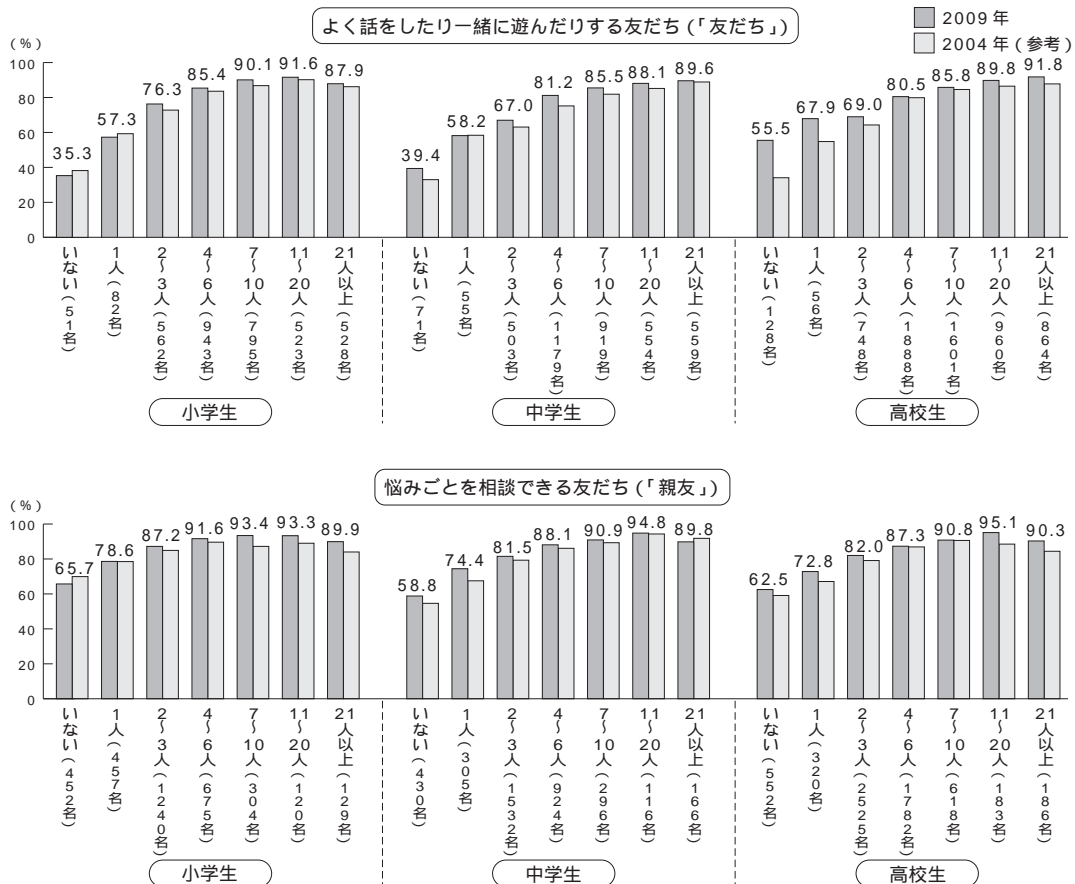
まず、「次のような友だちは、全部で何人くらいいますか」で、「日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち」(「友だち」と呼ぶ)と「悩みごとを相談できる友だち」(「親友」と呼ぶ)の数ごとに、「友だちとの関係」で「とても満足している」+「まあ満足している」と答えた割合を示したのが図4-1-5である。

「友だち」の数は、小学生の「21人以上」を除けば、多いほど友だちへの満足度は高い。「いない」は、小・中学生でとくに「友だちとの関係」への満足度を下げている。「親友」も、「21人以上」と多すぎる場合はやや満足度が下がるものの、多いほど満足度が高い。

2004年と比較すると、小学生は「親友」の「7~10人」「21人以上」の場合、中学生では「友だち」が「いない」「4~6人」や「親友」が「1人」の場合、高校生では「友だち」が「いない」「1人」や「親友」が「1人」「11~20人」「21人以上」の場合に、満足度が5ポイント以上上昇している。とりわけ高校生の「友だち」が「いない」「1人」の場合の満足度の増加は、それぞれ21.3ポイント、13.0ポイントと著しい。

つまり、一方で、「悩みごとを相談できる友だち」が多いほど満足する傾向が強まっている。紙幅の都合で「親友」と表記したが、それは、深く全人的なかかわりをする友人というよりは、分野ごとに気軽に相談できる人を多数確保するといったものなのかもしれない。他方で、「友だち」が少なくとも以前ほど不満に思わなくなっており、友だちへの期待が低くなっている。

図4-1-5 友だちの数別にみた「友だちとの関係」への満足度(学校段階別、経年比較)



注1)「友だちとの関係」に「とても満足している」+「まあ満足している」の%。
注2) 図中のサンプル数および%は2009年のもの。

多様な価値観を認め合えると満足度が高い

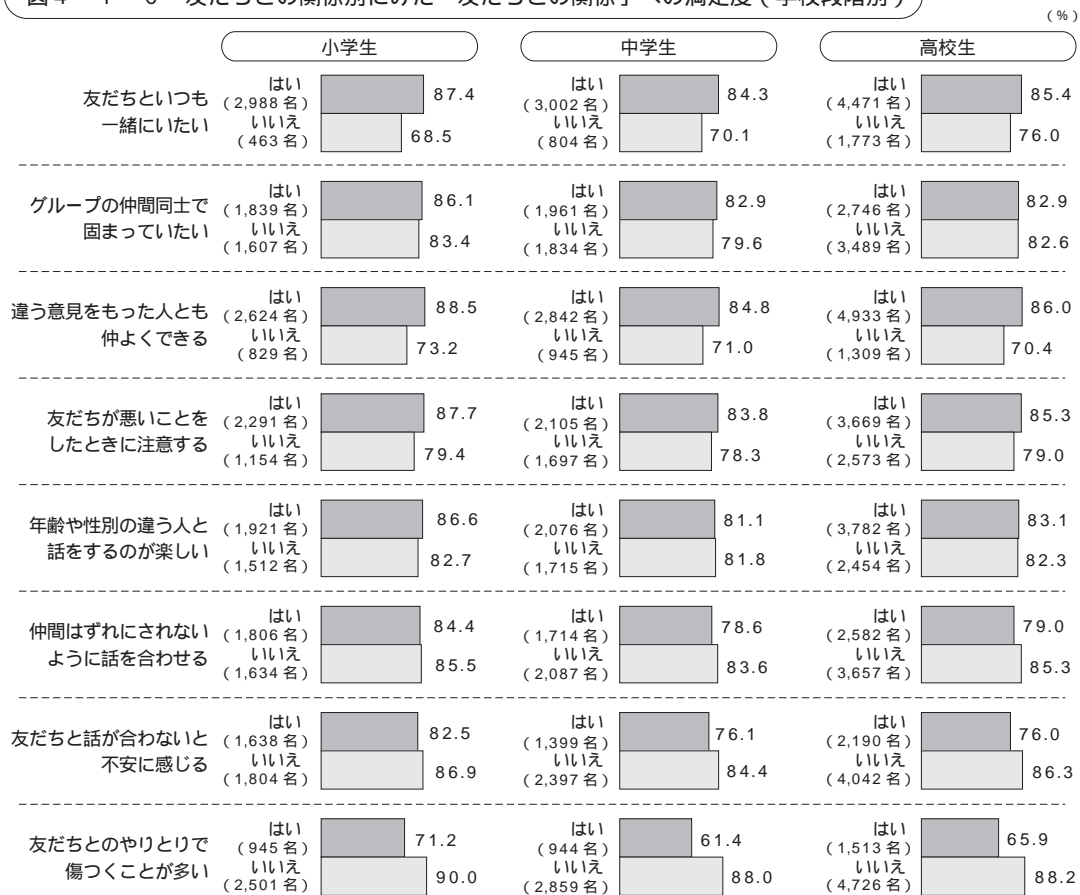
「友だちとの関係について、次のようなことほどのくらいありますか」という設問への回答ごとに、「友だちとの関係」で「とても満足している」+「まあ満足している」と答えた割合を示したのが図4-1-6である。

3ポイント以上差がついているものに注目すると、「友だちといつも一緒にいたい」(小・中・高校生)や「グループの仲間同士で固まっていたい」(中学生)にあてはまるほうが、満足度が高い。友だちと密な接触をすることが重要視されている。さらに、「違う意見をもった人とも仲よくできる」(小・中・高校生)「友だちが悪いことをしたときに注意する」(小・中・高校生)「年齢や性別の違う人と話をするのが楽しい」(小学生)にあてはまるほうが、満足度も高い。単に

密だけでなく、多様な価値観を認め合えるほど、友だち関係に満足できるようである。

逆に、「仲間はずれにされないように話を合わせる」(中・高校生)「友だちと話が合わない不安を感じる」(小・中・高校生)「友だちのやりとりで傷つくことが多い」(小・中・高校生)があてはまる場合は、満足度が低い。密な人間関係志向が、多様性を認め合うほうに向かえばよいが、それが同調圧力に転化すると息苦しさにつながるといえる。近年では、友だち関係は、単純な同調圧力というよりも、空気を読んで「キャラ」がかぶらないようにコミュニケーションするものとなっているとも指摘されており(土井隆義『友だち地獄』筑摩書房、2008)多様性尊重と仲間はずれへの不安という傾向のゆえは注視する必要がある。

図4-1-6 友だちとの関係別にみた「友だちとの関係」への満足度(学校段階別)



注1)「友だちとの関係」に「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2)各項目について、「はい」は「とてもそう」+「まあそう」、「いいえ」は「あまりそうでない」+「ぜんぜんそうでない」とした。

第4章 現状・将来についての意識

地域への満足度は都市生活の利便性による？

ついで、「自分の住んでいる地域」への満足度の要因を考える。そもそも、子どもたちにとって「地域」とは何であろうか。

まず、地域別に「自分が住んでいる地域」への満足度の関係をみたのが表4-1-1である。満足度は、大都市>中都市>郡部の順で減少している。郡部でも満足度は依然高いものの、都市規模の影響がうかがえる。ただ、個別の学校によってだいぶ満足度に差があり、ごく具体的な地域の条件が大きく影響していると思われる。グループインタビューでは、多くの子どもが地域の満足度を測る指標として、駅までの距離や買い物をする場所の有無などをあげていたが、単なる都市規模に加え、より身近な生活の利便性が決め手となっているのかもしれない。

地域のつながりを感じられると

地域への満足度が上がる？

また、「地域のお祭りやイベントに参加したこと」があるか否かと、「ボランティア活動をする」か否かごとに、「自分が住んでいる地域」への満足度をみたのが表4-1-2である。「地域のお祭りやイベントに参加したこと」はあるほうが多数派であるが、参加したことのない子どもよりも明らかに地域に満足している。「ボランティア活動をする」子どもは少数派であるが、学校段階が上がるほど活動をしない子どもに比べて地域への満足度が高くなる。

すなわち、インフラ以外にも、人間関係やコミュニティといった視点から地域のつながりを感じていると、住んでいる地域への満足度は高くなるといえそうである。

表4-1-1 「自分が住んでいる地域」への満足度（学校段階別・地域別）

		「自分が住んでいる地域」への満足度 (%)
小学生	大都市 (1,049名)	83.0
	中都市 (1,437名)	79.9
	郡部 (1,075名)	78.6
中学生	大都市 (1,464名)	79.4
	中都市 (1,353名)	73.6
	郡部 (1,100名)	73.1
高校生	大都市 (2,248名)	81.9
	中都市 (1,615名)	79.3
	郡部 (2,456名)	78.7

注)「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

表4-1-2 祭り、ボランティアへの参加と「自分が住んでいる地域」への満足度（学校段階別）

			「自分が住んでいる地域」への満足度 (%)
地域のお祭りや イベントへの参加	小学生	なし (553名)	69.3
		あり (2,978名)	82.5
	中学生	なし (518名)	66.0
		あり (3,381名)	77.3
	高校生	なし (957名)	71.7
		あり (5,344名)	81.5
ボランティア活動	小学生	しない (3,135名)	80.1
		する (403名)	82.9
	中学生	しない (3,464名)	75.1
		する (439名)	80.4
	高校生	しない (5,919名)	79.7
		する (390名)	85.9

注1)「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

注2)「地域のお祭りやイベントに参加したこと」が「たくさんあった」+「ときどきあった」を「あり」、「あまりなかった」+「ぜんぜんなかった」を「なし」とし、「ボランティア活動をする」が「よくある」+「ときどきある」を「する」、「あまりない」+「ぜんぜんない」を「しない」とした。

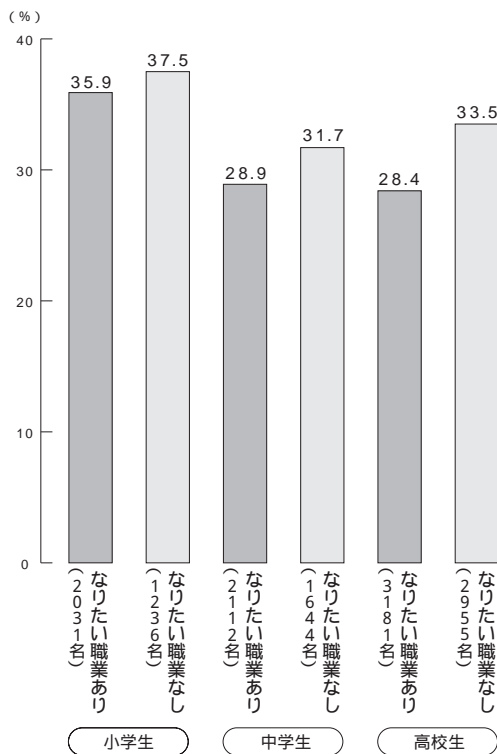
なりたい職業があると社会の現実を感じる？

先にみたように、身近な生活に比べて、「今の日本の社会」への満足度は高くない。身近な生活に満足しているほど日本社会への満足度も高くなる傾向はあるが、全体としては、「日本社会」は、生活実感とはやや離れたものとして評価されるようである。子どもにとって「日本社会」とは何を意味しているのだろうか。

グループインタビューでは、政治や景気など、メディアを通して触れる社会像が判断理由としてあげられることが多かったが、「新聞の記事を読む」「テレビのニュース番組を見る」かどうかや「社会のできごとやニュースについて」親と話をするかどうかは、「日本社会」への満足度に影響を与えてはいなかった。

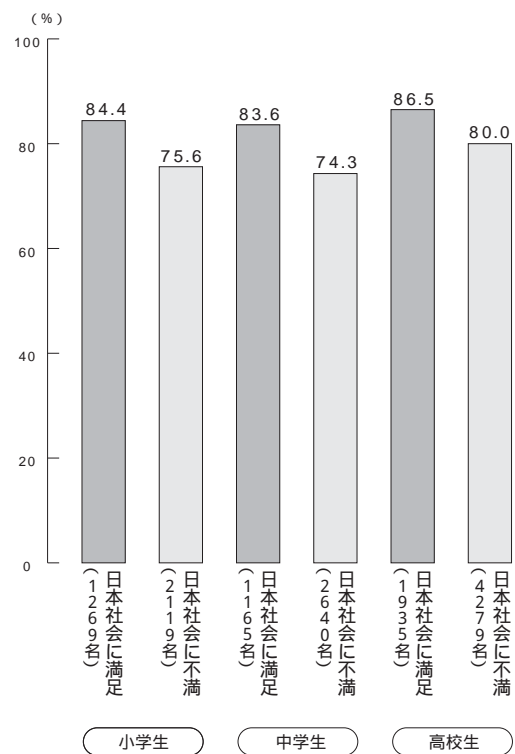
そこで、「将来なりたい職業」があるかないか

図4-1-7 なりたい職業の有無別にみた日本社会への満足度（学校段階別）



注)「とても満足している」+「まあ満足している」の%。

図4-1-8 日本社会への満足度別にみた40歳時「幸せになっている」と思う割合（学校段階別）



注1) 40歳時「幸せになっている」で「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2)「今の日本の社会」に「とても満足している」+「まあ満足している」を「満足」、「あまり満足していない」+「ぜんぜん満足していない」を「不満」とした。

と「今の日本の社会」への満足度の関係を見たのが図4-1-7である。中学生と高校生ではなりたい職業があるほうが満足度が低くなっており、その差は高校生のほうが広がっている。グループインタビューで、就職を意識したときに昨今の経済状況が気にかかるという意見があったが、データにも同様の傾向が表れている。

ちなみに、「今の日本の社会」に満足しているほど、40歳時に「幸せになっている」と思う割合が高い(図4-1-8)。「現在の日本社会に満足していればいるほど、将来への希望が持てる」といえるが、日本社会への満足度自体が身近な生活感覚とは直結しない「イメージ」に近いものであることに注意する必要がある。そのせいか、学校段階が上がると差が縮まっている。

2. 自分自身について

2004年調査に続き、子どもは肯定的に自分をとらえているが、高校生や男子で肯定的なとらえ方が一部減少傾向にある。また、小学生は今尊重されるほど、中・高校生は今不満ですでに大人に混じっているほど、「早く大人になりたい」傾向がある。

自己像はより肯定的に子どもは自分自身のことをどのように感じているのであろうか。自己像や情緒に関する設問の回答傾向が図4-1-9である。

大きな傾向は2004年と変わらず、「自分のことは、できるだけ自分でするようにしている」「やる気になれば、どんなことでもできる」「きまりやルールをきちんと守るほうだ」「好きで、熱中していることがある」「ねばり強く最後まで続けるほうだ」など、まじめで自分に対して肯定的な像を持つ子どもが多い。さらに、「やる気になれば、どんなことでもできる」(小学生)「きまりやルールをきちんと守るほうだ」(小・高校生)「好きで、熱中していることがある」(小・高校生)「いやなことがあっても、すぐに忘れる」(中・高校生)「運がよい」(高校生)が3ポイント以上増加しており、全体的には自己像はさらに肯定的でまじめになっている。逆に、否定的な自己像である「カッとなりやすい」は中・高校生で3ポイント以上下がっている。全体的には、2004年の傾向がより進んだといえよう。

ただ、「自分の外見(顔やスタイル)が気になる」が小学生で3.2ポイント増えており、外見を意識する傾向の低年齢化が進んでいる。また、高校生で、「やる気になれば、どんなことでもできる」が4.1ポイント下がり、「つかれやすい」が5.9ポイント上がっており、自己効力感を得られず疲労している様子なのも気にかかる。なお、「早く大人になりたい」が未だ半数以下であるものの、各学校段階で6ポイント以上増加してい

るのも2009年の特徴である。この点は後で検討する。

マイペースでのんきな男子、
しっかり者で気疲れする女子

2009年調査の回答傾向を、男女ごとにみただけが表4-1-3である。5ポイント以上差があるものに不等号をつけた。

女子のほうが多いのは、「きまりやルールをきちんと守るほうだ」(小・中学生)「つかれやすい」(中学生)「カッとなりやすい」(小・高校生)「早く大人になりたい」(小学生)「自分の外見(顔やスタイル)が気になる」(小・中・高校生)「つまらないことですぐに落ち込む」(中・高校生)である。女子はまじめな一方、外見を気にしたり、すぐ落ち込んだりと周囲に気をつかう傾向がみられる(ただし、「カッとなりやすい」は、女子は男子以上に改善傾向にある)。

それに対して、男子のほうが多いのは、「好きで、熱中していることがある」(高校生)「ねばり強く最後まで続けるほうだ」(小学生)「いやなことがあっても、すぐに忘れる」(小・中・高校生)「運がよい」(小・中・高校生)である。男子のほうがくよくよ考えずに好きなことをやり、マイペースのようである。

女子化する男子？

ただ、2004年と比較した場合、「つかれやすい」が、小・中学生で女子は減少したのに対して男子は増加しており、高校生でも男女とも上昇し

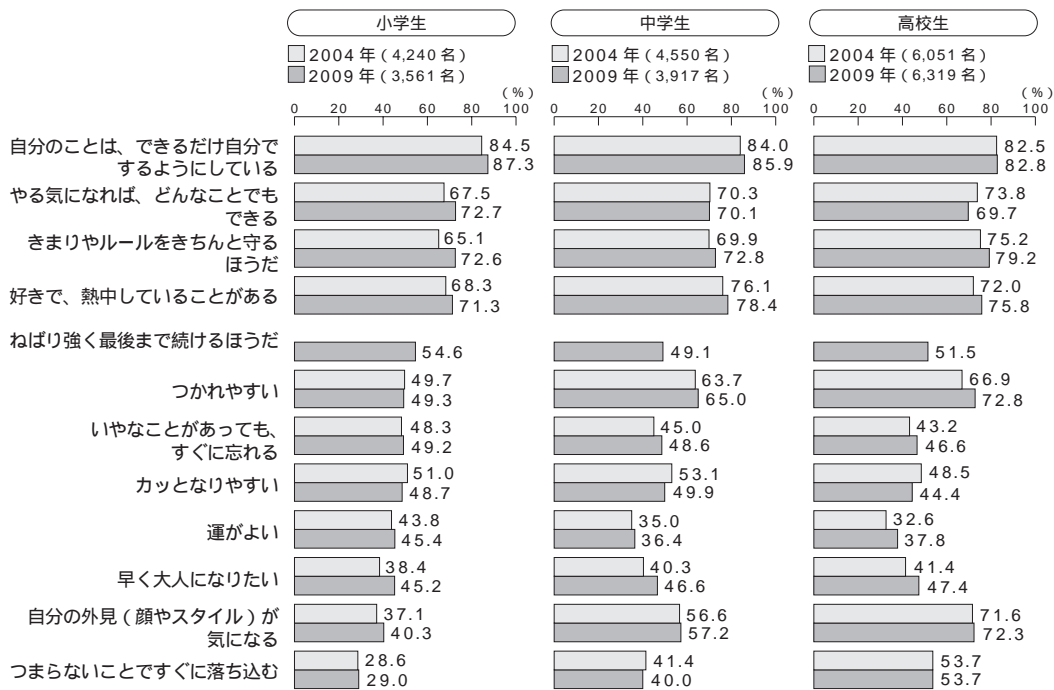
ているが男子の上昇が著しい(男子:小学生2004年46.8% 2009年48.2%(以下同) 中学生57.2% 61.9%、高校生62.2% 71.4%、女子:小学生53.0% 50.5%、中学生70.3% 68.3%、高校生72.0% 74.4%)

また、「自分の外見(顔やスタイル)が気になる」で、小学生は男女とも増加しているが、中・高校生では、女子は減少または変化なしにもか

かわらず、男子がわずかに増加している(男子:小学生24.6% 28.0%、中学生41.4% 44.4%、高校生61.4% 62.6%、女子:小学生50.4% 53.1%、中学生71.8% 70.8%、高校生82.8% 82.8%)

男子がマイペースでいられなくなり、さまざまなことにつかうようになってきているのかもしれない。

図4-1-9 自分自身について(学校段階別、経年比較)



注)「とてもそう」+「まあそう」の%。

表4-1-3 自分自身について(学校段階別、性別)

項目	小学生		中学生		高校生	
	男子(1,814名)	女子(1,745名)	男子(2,012名)	女子(1,896名)	男子(3,306名)	女子(3,005名)
自分のことは、できるだけ自分でするようにしている	85.6	89.1	85.5	86.4	84.0	81.6
やる気になれば、どんなことでもできる	71.6	74.0	69.2	71.0	68.6	70.9
きまりやルールをきちんと守るほうだ	66.5	79.0	69.5	< 76.4	77.0	81.8
好きで、熱中していることがある	73.2	69.3	79.2	77.8	78.3	> 73.2
ねばり強く最後まで続けるほうだ	57.6	> 51.6	50.0	48.2	51.0	52.1
つかれやすい	48.2	50.5	61.9	< 68.3	71.4	74.4
いやなことがあっても、すぐに忘れる	53.7	> 44.5	52.8	> 43.9	49.6	> 43.4
カッとなりやすい	45.2	< 52.2	47.6	52.2	42.0	< 47.0
運がよい	50.3	40.1	40.7	> 31.6	41.1	> 34.3
早く大人になりたい	41.8	< 48.8	44.3	48.9	48.3	46.4
自分の外見(顔やスタイル)が気になる	28.0	53.1	44.4	70.8	62.6	82.8
つまらないことですぐに落ち込む	28.1	30.0	33.0	47.6	48.3	59.8

注1)「とてもそう」+「まあそう」の%。

注2) < > は5ポイント以上、 > < は10ポイント以上差があることを示す。

第4章 現状・将来についての意識

今がよいから大人になりたい小学生、
今が不満だから大人になりたい中・高校生

ここからは、「早く大人になりたい」に注目したい。どういう子どもが大人になりたがるのであろうか。まず、現在の生活の満足度との関係から探ってみたのが図4-1-10である。小学生と中・高校生で様子が違っている。

3ポイント以上差がついているものに注目すれば、小学生は、「自分の性格」や「今の日本の社会」に満足し、「学校の先生との関係」に満足していないほど、「早く大人になりたい」割合が高くなる。学校の先生との関係は次にみる中・高校生の傾向に通ずる部分もあるが、どちらかといえば、今の自分や社会に満足していると大人になりたいのである。

高校生は、「家族との関係」「学校の先生との関係」「自分が通っている学校」に満足していないほど、「早く大人になりたい」の割合が高くなる。中学生は、これに「現在の自分の成績」「自分が住んでいる地域」も加わる。つまり、中・高校生では、現在のまわりの人間関係や環境に満足していないほど大人になりたいと思い、逆に現在に満足していると大人になりたいと思わないのである。

高校生では大人の世界に身近なほうが
「早く大人になりたい」と思う

他にも、大人になることに関係しそうな項目として、「将来なりたい職業」があるかどうか、アルバイト経験（高校生のみ）、現在親が「あなたのことを大人として扱ってくれる」かどうか、

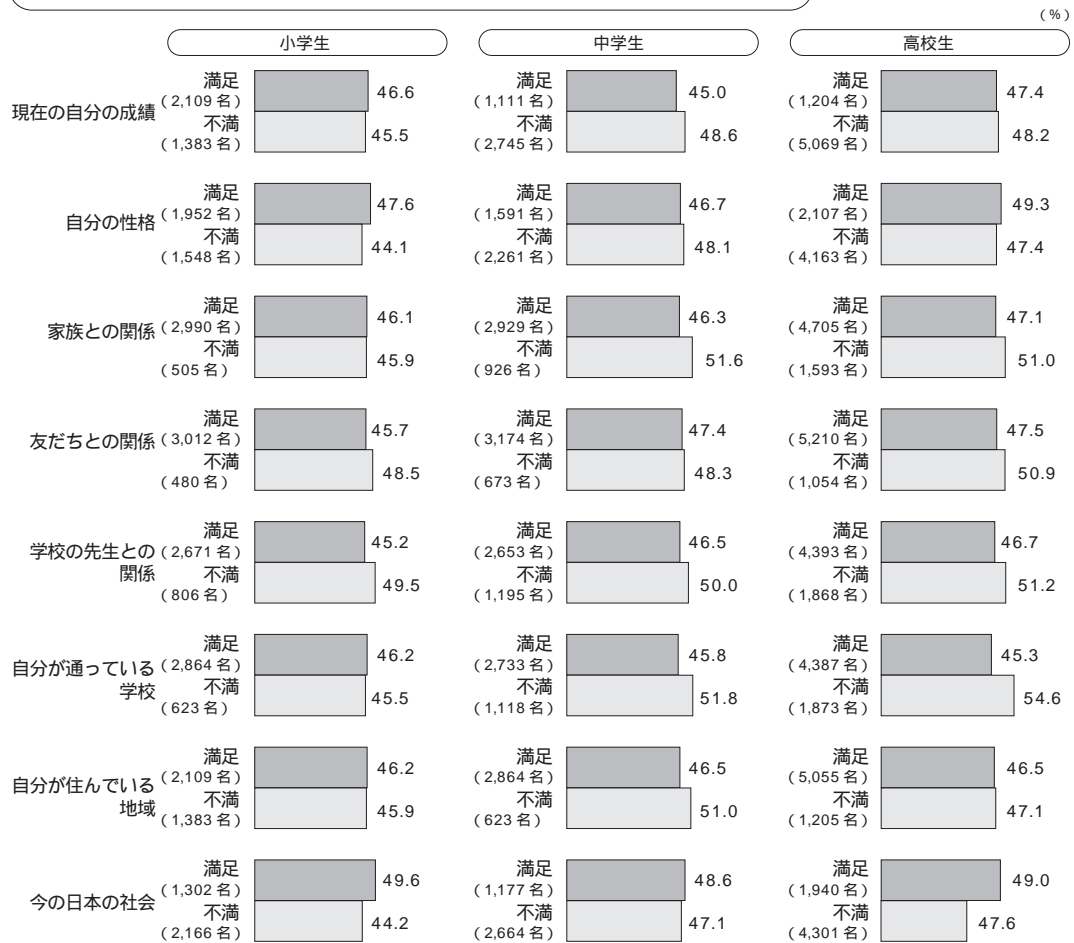
地域別、成績（小・中学生）・高校偏差値層別（高校生）も確認した（表4-1-4）。

「早く大人になりたい」と答える割合が3ポイント以上高いのは、小・中・高校生を通してなりたい職業があるほう、高校生でアルバイト経験があるほう、小・中学生で親が大人として扱ってくれるほう、小学生と高校生で大都市より中都市や郡部のほうである。小・中学生の成績は関係しないが、高校生では進路多様校>中堅校>進学校の順に大人になりたい率は下がる。

なりたい職業は、小学生のころはいわゆる「夢」であるが、高校生ごろから急速に現実味を帯びてくる。同様に、「大人として扱う」の意味も学校段階で変わってこよう。先の分析と合わせて考えても、小さいころは、地方に住んでいる子ども、親に尊重され自信が持てている子どものほうが大人になりたいということであろう。

高校生となると、実際に大人に混じり、現実的な意味で職業希望があるほうが大人になることを希望している。ただ、高校偏差値層別では進路多様校ほど、また地域別では中都市や郡部ほど、「早く大人になりたい」と思っているという結果である。これらは現在の生活に不満を持ちやすい層である（本節第1項参照）。現在に不満を持ちながらも、すでに実質的に大人に近い生活を送っているほど、「早く大人になりたい」のである。ということは、この層は進学重視の風潮のなかで意思に反して学校生活に留め置かれているともいえる。逆に、都会の進学校の生徒が、「大人になりたい」と思いつらいのも気にかかる。

図4-1-10 生活満足度別にみた「早く大人になりたい」(学校段階別)



注1)「早く大人になりたい」で「とてもそう」+「まあそう」の%。

注2)各項目について、「とても満足している」+「まあ満足している」を「満足」、「あまり満足していない」+「ぜんぜん満足していない」を「不満」とした。

表4-1-4 「早く大人になりたい」の諸要因(学校段階別)

		小学生	中学生	高校生
将来なりたい職業	ある	49.7	52.5	51.6
	ない	38.8	40.1	43.2
アルバイト(高校生のみ)	現在、している			56.2
	したことはあるが、現在はしていない			55.0
	したことがない			46.1
親が大人として扱ってくれる	はい	51.4	50.9	49.8
	いいえ	43.5	45.7	46.9
地域	大都市	41.8	46.3	39.9
	中都市	46.4	45.7	51.1
	郡部	47.0	47.9	51.7
成績(小・中学生のみ)	上位	45.6	45.7	
	中位	45.5	46.5	
	下位	45.9	47.7	
高校偏差値層(高校生のみ)	進学校			41.9
	中堅校			50.7
	進路多様校			54.9

注)「早く大人になりたい」で「とてもそう」+「まあそう」の%。

第2節 将来についての意識

1. 将来像

4分の3以上の子どもが、40歳くらいになったとき「幸せになっている」と答えている。また、子どもや親に囲まれてのんびり暮らしているイメージはあるが、社会的成功や社会貢献をしているイメージはあまりないようである。

身近な人、のんびりした生活を大切にしたい
幸せな未来

子どもたちは、自分たちの将来をどう思い描いているのであろうか。2009年調査では、「あなたが40歳くらいになったとき、次のようなことをしていると思いますか」という設問が新しく加わった。その結果が図4-2-1である。4分の3が、「幸せになっている」に「とてもそう思う」+「まあそう思う」と答えており、多くの子どもが自分の未来に漠然と肯定的・楽観的な展望を持っている。

さらに、具体的な将来像では、「親を大切にしている」が7～8割、「子どもを育てている」が6～7割と、身近な他者との親密な関係を重視する傾向の項目で選択率が高い。ついで、「自由にのんびり暮らしている」が6～7割である。

このような自分の身近な人やのんびりした生活を重視した将来像に対して、自身の野心を満たしたり、社会貢献したりという将来像は希薄なようである。「多くの人に役に立っている」「お金持ちになっている」「有名になっている」「世界で活躍している」は、半数以下となっている。ただし、そのような志向性はあっても実現できると思い描けていないのか、志向性自体が希薄なのかは、検討が必要である。

中学生はのんびりしたい？

学校段階に注目してみると、多くの項目で、中学生でいったん減ったあと、高校生で増加する。ただし、「自由にのんびり暮らしている」のみ、中学生で突出している。中学生は疲れているのであろうか。

高校生で増えるのは、「子どもを育てている」と「多くの人に役に立っている」である。逆に、「有名になっている」は中学生で減ったあと、他の項目とは異なり高校生でさらに減っている。年齢が上がり、現実的に考えるようになっていいるのかもしれない。

将来の家族像が描けないと

「幸せになっている」と思えない

「幸せになっている」と他の具体的な将来像の関係をみたのが図4-2-2である。

すべての項目で、具体的な将来展望が持てていないほど、「幸せになっている」の選択率が下がっており、具体的な将来展望を持てるか否かと、漠然と将来幸せになっていると思えるか否かは関係している。

興味深いのは、なかでも「親を大切にしている」と「子どもを育てている」で、「あまりそう思わない」+「ぜんぜん思わない」(図中では「い

いえ)」と、「幸せになっている」と答える割合が極端に低くなっていることである。いろいろな将来像のなかでも、とりわけ親や子どもに囲まれた暮らしが想像できないと、将来が幸せであると想像しにくいようである。

前述のようにこの2項目は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の選択率自体も高い。その上、現代の子どもにとって、野心や社会貢献よりも

家族との幸せな未来が、将来の幸せの決め手として重要な意味を持つようである。ここから、現代の子どもたちは将来像として、親密な関係性を重視し、野心や社会貢献への志向性自体が希薄である可能性が示唆できる。

なお、学校段階による違いがみられなかったため図4-2-2では中学生のデータのみ使用している。

図4-2-1 将来像（学校段階別）

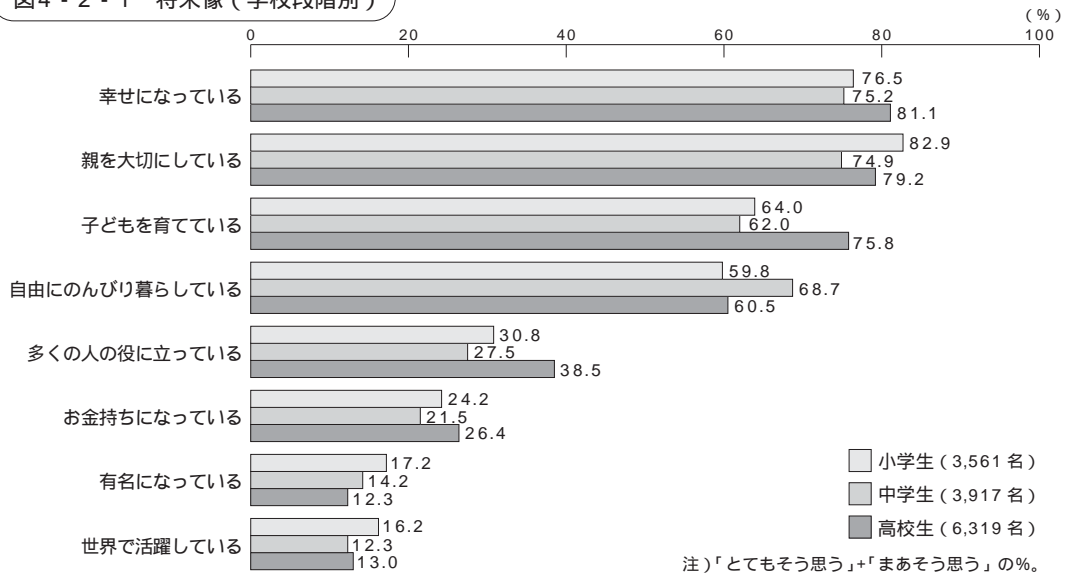
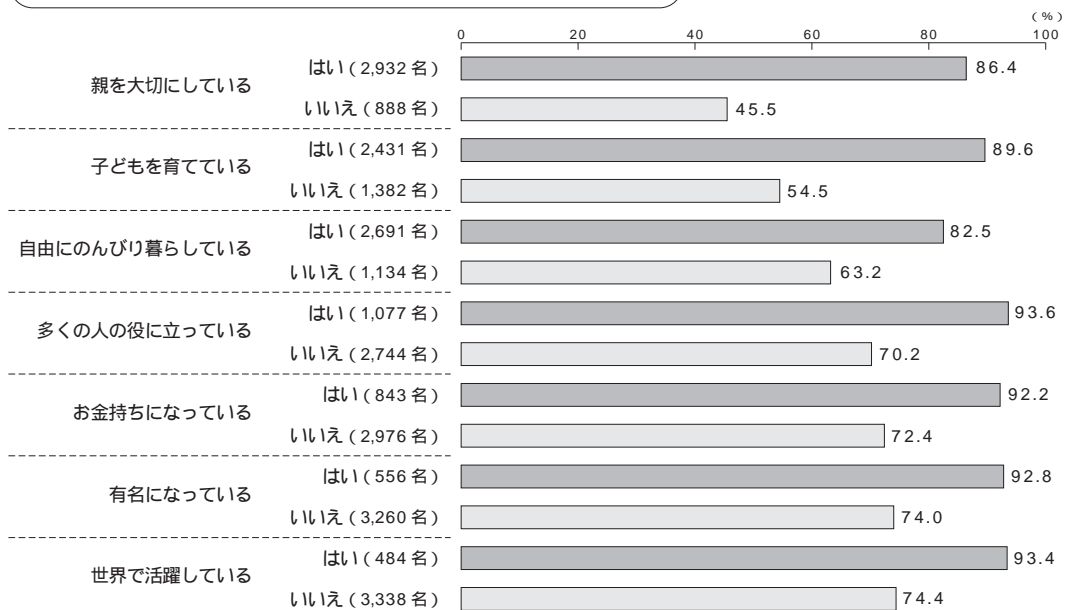


図4-2-2 将来像別にみた「幸せになっている」（中学生）



注1)「幸せになっている」で「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2)各項目について、「はい」は「とてもそう思う」+「まあそう思う」、「いいえ」は「あまりそう思わない」+「ぜんぜんそう思わない」とした。

第4章 現状・将来についての意識

男子のほうがやや野心的だが楽観さに欠ける次に、男女ごとに見たのが表4-2-1である。全体としては少数派の「お金持ちになっている」「世界で活躍している」「有名になっている」はすべての学校段階において、男子で多くなっている。未だ少数派とはいえ、男子のほうが野心を持っているといえる。それに対して、女子のほうは、「子どもを育てている」「親を大切にしている」「自由にのんびり暮らしている」(小・中学生のみ)といった身の周りの幸せをいっそう重視する傾向がみられる。また「幸せになっている」は女子のほうが多く、女子のほう将来に希望を持ちやすいといえる。

豊かな子ども時代が将来の展望を見せる？

なお、紙幅の都合で図表を割愛するが、いくつかの項目が、将来展望を左右している。

第1に、成績(高校生は高校偏差値層)がよいほうが、「自由にのんびり暮らしている」を除いたすべての項目で「そう思う」が多い。第2に、なりたい職業が「ある」ほうが、同様に「自由にのんびり暮らしている」を除いたすべての項目で「そう思う」が増える。現在の成績に加え、具体的な目標や夢を持つことが、将来展望を開かれたものになっている。

第3に、小さいころから今までに「経験をしたこと」であてはまる項目数が多く、親の文化度が高いと、多くの項目で一般的に「そう思う」が多くなる(親の文化度は、「家でお父さんはパソコンを使う」「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」「親は毎日、新聞を読んでいる」「お父さんは大学や短期大学を卒業している」「お母さんは大学や短期大学を卒業している」にあてはまる項目数で判断した)。経験豊富で文化に囲まれた子ども時代を過ごせるほうが、積極的な将来展望につながっている。

第4に、父母との会話が多いほど、「子どもを

育てている」「親を大切にしている」「多くの人役に立っている」「自由にのんびり暮らしている」といった身近な幸せを示す項目の選択率が高い(会話は、父母それぞれについて「話をする」項目数で判断した)。実体験として身近な人のかかわりが満たされていると、未来もそのようなものとして思い描きやすいといえる。

勉強と自分への自信が将来展望につながる

現在の生活への満足度と将来展望の関係をみたのが表4-2-2である。

「自分の性格」に満足していると、一貫して、ほぼすべての項目で「そう思う」が多くなる。「現在の自分の成績」への満足も、小学生ではすべての将来展望を、中学生では他人との関係性を重視する将来像を、高校生では自分が活躍する将来像を増加させている。成績や性格に自信が持てると将来展望につながるといえる。

表は省略するが、「家族との関係」「友だちとの関係」「学校の先生との関係」「自分が通っている学校」「自分が住んでいる地域」に満足していると、「子どもを育てている」「親を大切にしている」「多くの人に役に立っている」「幸せになっている」といった身近な他者を大切にする将来像や「自由にのんびり暮らしている」の選択率が高い。身近な人間関係や生活に満足していれば、「将来も満足したい、満足しているにちがいない」と思えるのであろう。

また、「今の日本の社会」に満足なほど、「幸せになっている」(小・中・高校生)ほか、「世界で活躍している」(小学生)「親を大切にしている」「子どもを育てている」「お金持ちになっている」(以上、中・高校生)「自由にのんびり暮らしている」(中学生)の選択率が高い。社会に不満が少ないと不安なく生活を思い描け、野心的になったり逆に楽観的になったりもできるようである。

表4-2-1 将来像(学校段階別・性別)

(%)

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (1,814名)	女子 (1,745名)	男子 (2,012名)	女子 (1,896名)	男子 (3,306名)	女子 (3,005名)
幸せになっている	72.4	< 80.7	72.0	< 78.7	78.7	< 83.9
親を大切にしている	79.3	< 86.6	70.0	80.0	75.2	< 83.5
子どもを育てている	55.9	72.3	55.8	68.7	73.9	78.2
自由にのんびり暮らしている	56.1	< 63.7	65.5	< 72.1	61.1	60.0
多くの人の役に立っている	31.3	30.5	28.9	26.0	39.3	37.6
お金持ちになっている	28.7	> 19.6	25.8	> 16.8	30.6	> 21.8
有名になっている	22.3	11.9	18.5	> 9.6	16.9	> 7.1
世界で活躍している	20.7	> 11.6	16.5	> 8.1	16.2	> 9.5

注1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) <>は5ポイント以上、>は10ポイント以上差があることを示す。

表4-2-2 生活満足度別にみた将来像(学校段階別)

自分の性格

(%)

	小学生		中学生		高校生	
	不満	満足	不満	満足	不満	満足
幸せになっている	69.6	82.9	70.1	85.0	77.5	89.7
親を大切にしている	79.9	< 86.1	72.1	< 81.2	77.5	< 84.0
子どもを育てている	60.1	< 67.6	59.9	< 67.1	75.0	79.0
自由にのんびり暮らしている	57.3	< 62.4	67.0	< 73.5	58.8	< 65.2
多くの人の役に立っている	23.8	36.6	22.3	36.0	33.9	48.2
お金持ちになっている	18.7	29.0	17.0	28.5	22.4	34.8
有名になっている	12.7	< 20.8	11.3	< 18.7	9.2	< 18.3
世界で活躍している	11.3	< 20.0	9.3	< 17.1	10.2	< 18.6

現在の自分の成績

(%)

	小学生		中学生		高校生	
	不満	満足	不満	満足	不満	満足
幸せになっている	69.8	81.9	74.4	< 80.8	81.0	84.1
親を大切にしている	79.3	< 86.1	74.4	< 79.7	79.5	80.6
子どもを育てている	58.1	68.5	61.8	65.5	76.5	76.0
自由にのんびり暮らしている	56.5	< 62.8	68.7	72.0	59.7	< 66.0
多くの人の役に立っている	25.0	< 34.9	25.9	< 32.9	38.3	40.6
お金持ちになっている	19.7	< 27.4	20.8	24.4	24.9	< 33.3
有名になっている	13.7	< 19.5	14.2	14.9	11.2	< 16.9
世界で活躍している	12.7	< 18.4	12.0	13.9	11.9	< 17.8

今の日本の社会

(%)

	小学生		中学生		高校生	
	不満	満足	不満	満足	不満	満足
幸せになっている	74.0	< 82.3	73.6	< 82.8	79.6	< 86.2
親を大切にしている	82.2	85.5	73.3	< 81.9	77.5	< 84.6
子どもを育てている	62.7	67.1	61.3	< 66.4	74.9	< 79.9
自由にのんびり暮らしている	60.7	59.8	68.1	< 73.9	59.7	63.8
多くの人の役に立っている	29.6	33.3	27.1	29.9	37.8	40.7
お金持ちになっている	23.0	26.9	20.1	< 25.8	24.7	< 30.7
有名になっている	16.3	18.8	13.7	16.1	11.2	14.7
世界で活躍している	14.2	< 19.3	12.0	13.6	12.3	14.7

注1)「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2) 各項目について、「満足」は「とても満足している」+「まあ満足している」、「不満」は「あまり満足していない」+「ぜんぜん満足していない」とした。

注3) <>は5ポイント以上、>は10ポイント以上差があることを示す。

2. 結婚後の家事・育児の分担について

現代の子どもたちは、将来、結婚した後の夫婦間の家事・育児分担について、全体的に平等に分担することを希望している。一方、家事・育児を「妻が中心に行う」と考えているのは、いずれの学校段階でも女子が多い。また、母親が働いている家庭の子どもは、平等分担を志向している割合が高い。男子においては、家事・育児にかかわる経験が平等分担志向につながる。

結婚後の家事・育児に対する意識は

小学生のころから男女差が明確

現代の子どもたちは、将来、結婚した後の夫婦間での家事・育児分担について、どのように考えているのだろうか。学校段階別・性別による結果を図4-2-3に示した。

全体的には、家事・育児を「夫と妻が同じくらい行う」を希望している割合が高い。学校段階別にみると、小・中・高校生と学校段階が上がるほど、「夫と妻が同じくらい行う」と考える割合が高くなる。「妻が中心に行う」と答えた割合は、いずれの学校段階においても男子より女子で高くなっており、小・中・高校生を通じて約3割の女子が、自分が中心になって家事・育児を行うと考えている。一方、「夫が中心に行う」は、いずれも5%未満の割合となっており、子どもたちには夫中心の家事・育児分担をイメージすることは難しいようである。

また、小学生男子で4割近く、中学生男子で3割近くが「考えたことがない」と回答しており、低年齢の男子は、結婚後の家事・育児分担のイメージは抱きづらいようである。しかし、女子で「考えたことがない」と回答したのは、小学生でも2割強、中学生では1割強となっており、結婚後の家事・育児に対する意識は、低年齢のころから男女差が明確である。

現在の自分の家庭を基準として

家事・育児分担をイメージ

このような子どもたちの結婚後の家事・育児分担のイメージに影響を与えているのはどのようなことなのだろうか。ここでは、身近な存在である母親の就業形態によって、子どもたちの家事・育児分担の希望がどう異なるのかを学校段階別・性別に確認した(図4-2-4)。

その結果、学校段階別、性別を問わず、母親が常勤(フルタイム)で働いている家庭の子どもは、パートタイムや専業主婦の家庭の子どもよりも、結婚後の家事・育児は「夫と妻が同じくらい行う」と回答している割合が高くなっている。一方、母親がパートタイムや専業主婦の家庭の子どもは、常勤の家庭の子どもよりも「妻が中心に行う」の回答割合が高い傾向がみられる。

とくに、高校生においては、男女とも平等分担志向が高まりつつも、母親の就業形態の影響を、小・中学生よりも強く受けているようである。

子どもたちは、現在の自分の家庭を基点としたイメージをもとに、結婚後の家事・育児の分担を考えているものと思われる。

図4-2-3 結婚後の家事・育児の分担（学校段階別・性別）

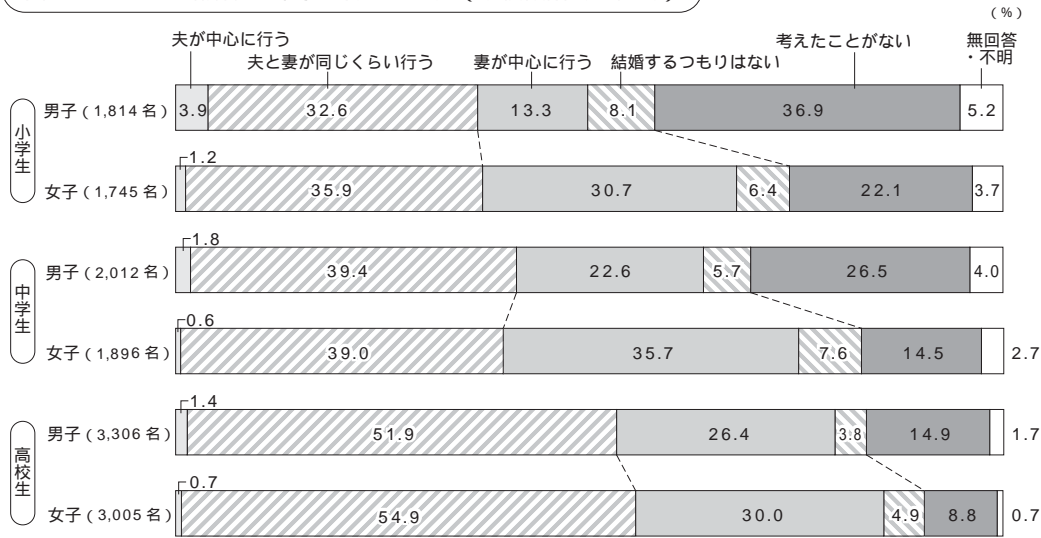
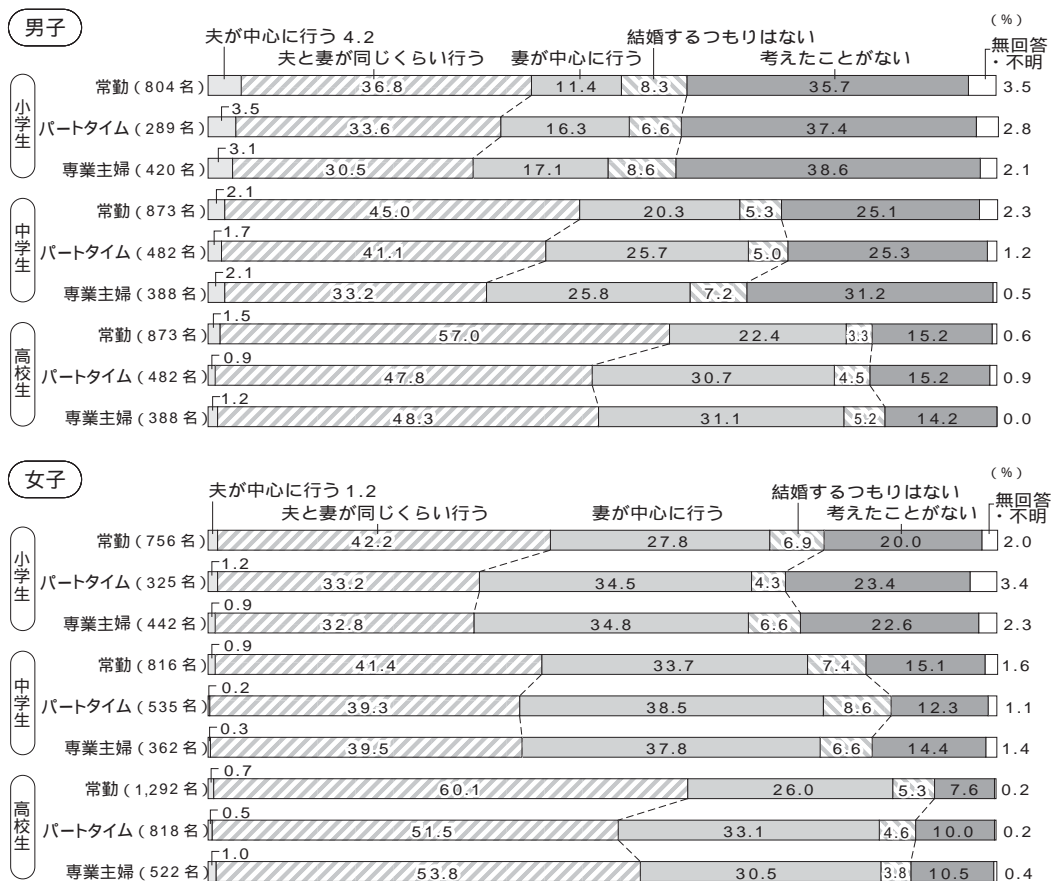


図4-2-4 結婚後の家事・育児の分担（学校段階別・性別・母親の就業形態別）



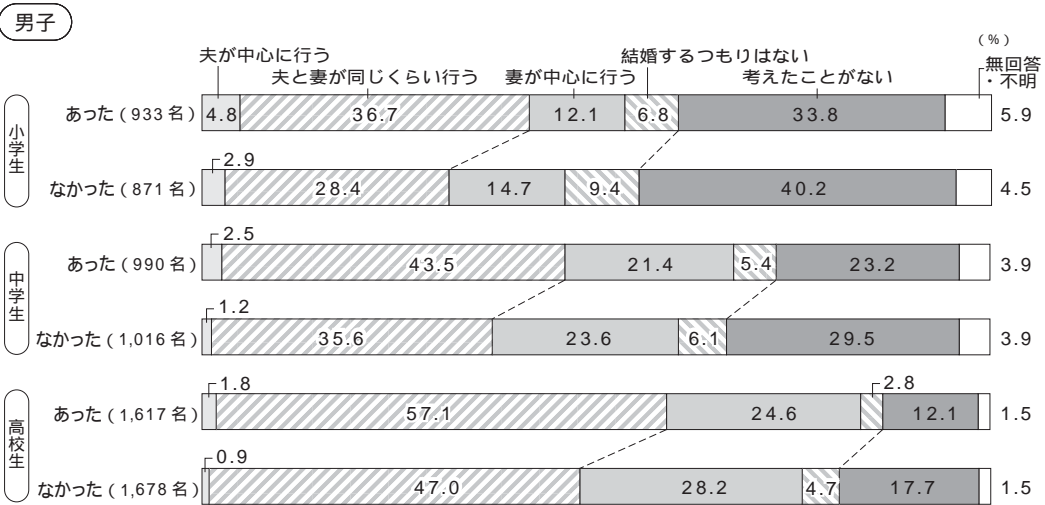
第4章 現状・将来についての意識

家事・育児にかかわる経験をしている男子は「平等志向」

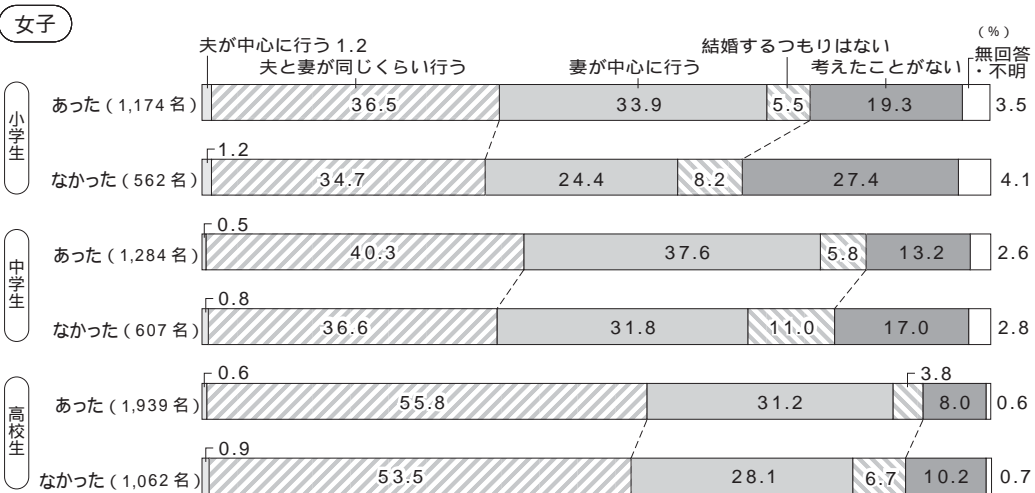
家事・育児にかかわる経験やふだんの行動は、子どもたちの将来の家事・育児の分担に対する意識にどのように影響しているのだろうか。ここでは、家事・育児にかかわる過去の経験とし

て「赤ちゃんをだっこしたこと」と、ふだんの行動として「家の手伝いをする」の2つの質問項目を用いて、その経験の有無による将来の家事・育児分担に対する意識の違いを学校段階別・性別でみてみる(図4-2-5~図4-2-6)。その結果、学校段階を問わず、こうした経験

図4-2-5 結婚後の家事・育児の分担(学校段階別・性別・「赤ちゃんをだっこしたこと」体験の有無)



注)「あった」は「たくさんあった」+「ときどきあった」、「なかった」は「あまりなかった」+「ぜんぜんなかった」。

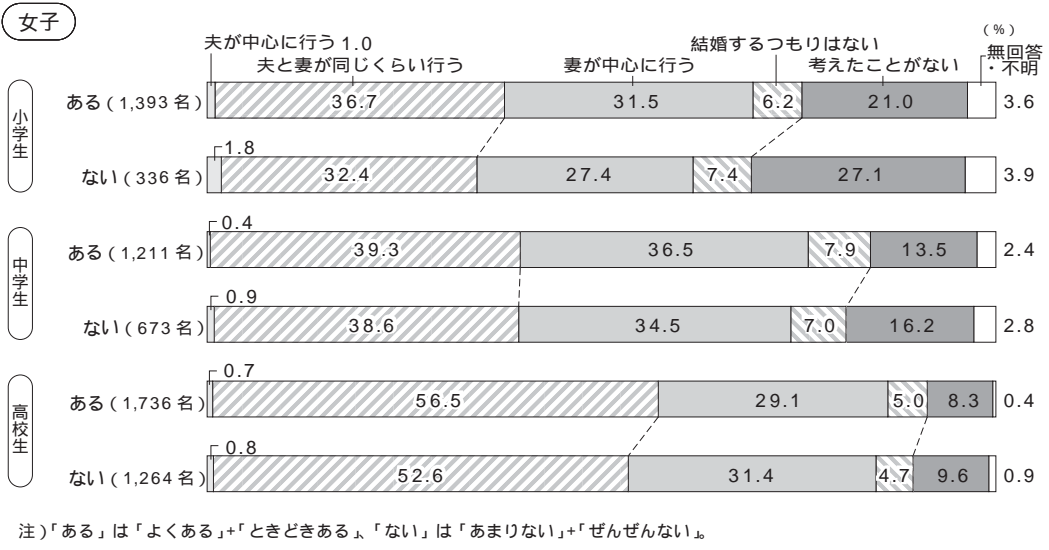
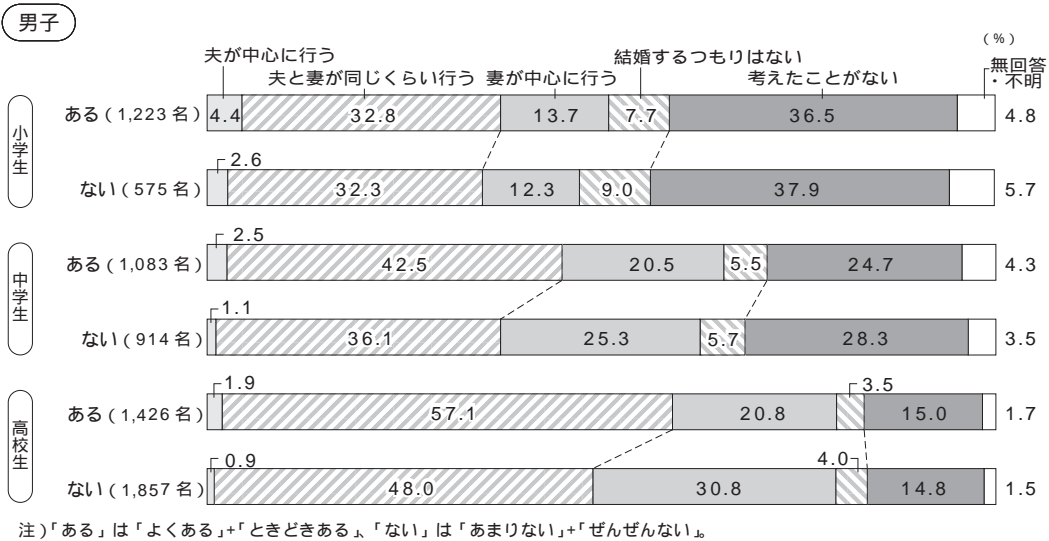


注)「あった」は「たくさんあった」+「ときどきあった」、「なかった」は「あまりなかった」+「ぜんぜんなかった」。

が「あった/ある」と回答した子どものほうが、家事・育児の分担は「夫と妻が同じくらい行う」と考えている割合が高い。男女別にみると、女子では、家事・育児経験の有無と将来の家事・育児の分担希望との関連は、そう強くはないが、男子においては、経験の有無によって「夫と妻

が同じくらい行う」を希望する割合が大きく異なっている。家事・育児にかかわる経験は、男子のジェンダー意識に大きく影響している。

図4-2-6 結婚後の家事・育児の分担（学校段階別・性別・「ふだん家の手伝いをするかどうか」）



3. 将来の職業について(1)

この5年間で、どの学校段階においても「将来なりたい職業」が「ある」と答える割合が減少しており、とくに高校生において、減少の割合が大きくなっている。性別でみると、小・中・高校生とも、女子よりも男子の減少幅が大きい。男子における減少幅は学校段階が上がるにつれて大きくなり、高校生男子がもっとも「なりたい職業」がなくなってきた。とくに進路多様校の男子においては2割以上も減少している。

「なりたい職業」が「ない」子どもが増加

ニート・フリーター問題から引き続いたことで、この5年間は、若者と仕事に対する議論やキャリア教育に注目が集まった時期であったといえる。こうした世情の中、子どもたちの職業観はどのように変化したのだろうか。

はじめに「将来なりたい職業」の有無について、5年間の変化をみていこう。学年別の結果を図4-2-7に示した。

全体的に、「なりたい職業」が「ある」の割合が減少している。学年ごとにみると、小学生においては4～7ポイント程度の減少幅で推移しているが、中2生から減少幅が大きくなりはじめ、中3生では2004年と比べて11.0ポイント減(2004年62.5% 2009年51.5%、以下同)、高1生では16.4ポイント減(64.8% 48.4%)、高2生では15.7ポイント減(68.7% 53.0%)と、とりわけ高校生において「なりたい職業」が「ある」の割合が大きく減少している。

高校生男子の減少幅がもっとも大きい

それでは、どの層において「なりたい職業」が「ある」の割合が減少しているのかを詳しくみていこう。まず、学校段階別に性別で5年間

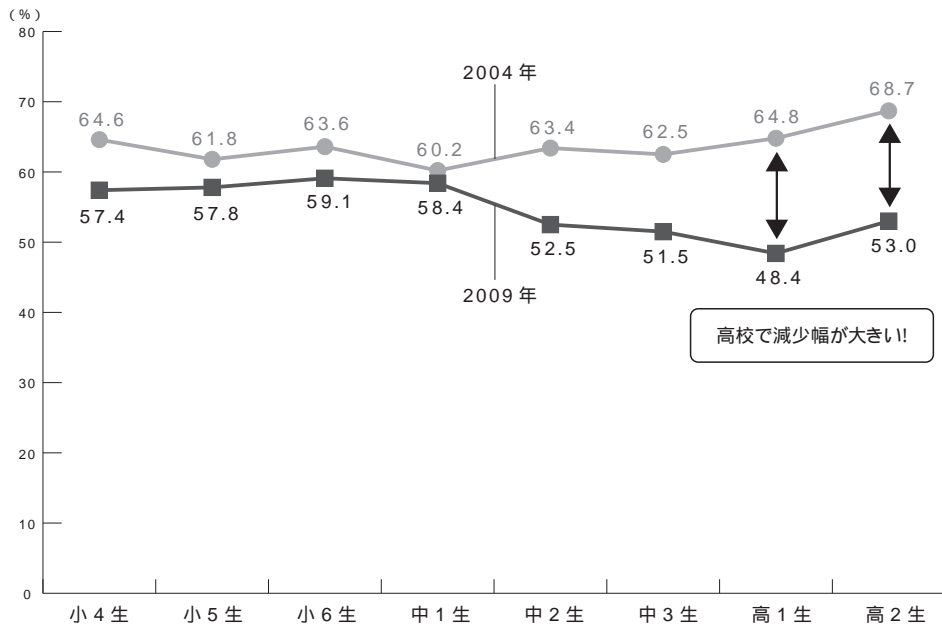
の変化をみてみる(図4-2-8)。

2004年と同様、2009年においても、小・中・高校生を通じて、男子よりも女子のほうが「なりたい職業」が「ある」と回答する割合が高くなっている。女子のほうが早期から将来の職業を意識しているという傾向は、5年前から変化していない。

次に、性別における減少幅に注目してみると、小学生男子では5.8ポイント減(57.8% 52.0%)、小学生女子が4.9ポイント減(69.4% 64.5%)、中学生男子では10.4ポイント減(56.4% 46.0%)、中学生女子が4.7ポイント減(67.6% 62.9%)となっている。高校生になると減少幅は大きくなり、男子で17.5ポイント(61.1% 43.6%)、女子でも14.8ポイント(73.2% 58.4%)減少している。小・中・高校生のいずれの学校段階においても、女子よりも男子の減少幅が大きくなる傾向がみられる。

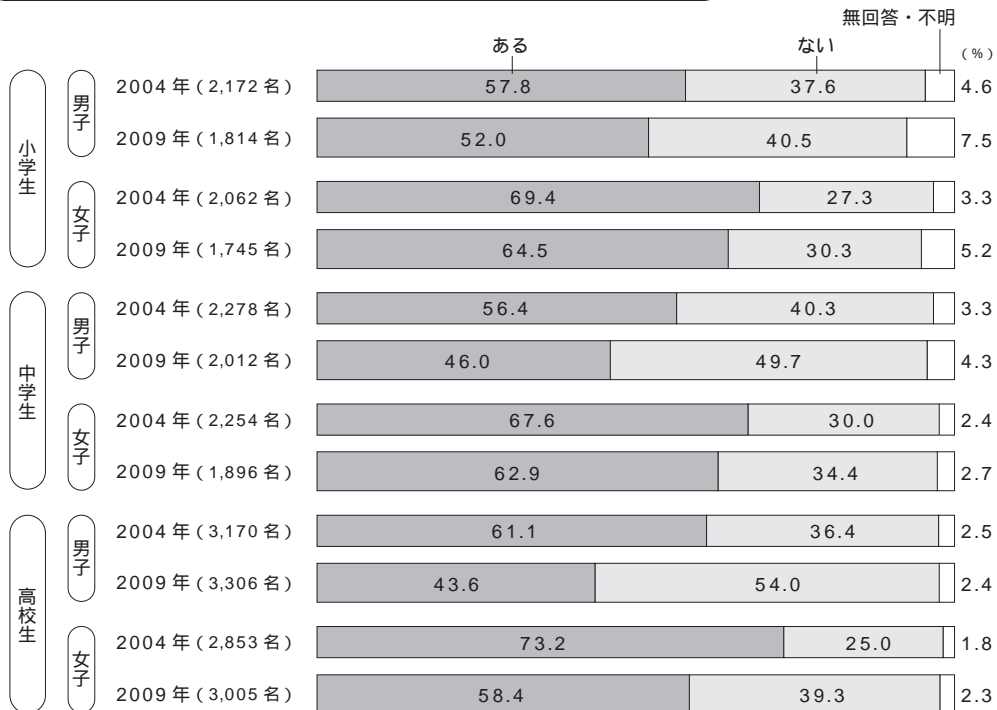
就業に対する危機感が高まった時期にあつて、より職業選択を現実的に考える必要のある高校生や、「男性は経済の担い手」というジェンダー規範によって、女子よりも就職へ重圧が大きいと思われる男子において「なりたい職業」がなくなっているという結果となっている。

図4-2-7 なりたい職業はあるか（学年別、経年比較）



注) なりたい職業が「ある」と回答した%。

図4-2-8 なりたい職業の有無（学校段階別・性別、経年比較）



第4章 現状・将来についての意識

進路多様校では2割以上減少

学力と「なりたい職業」の有無とは関連があるのだろうか。また、それはこの5年間でどのように変化しているのだろうか。学校段階別に成績（小・中学生）や高校偏差値層（高校生）によって「なりたい職業」の有無がどのように分布しているのかを経年で比較したものが、図4-2-9である。

小学生においては、成績上位層ほど、なりたい職業が「ある」と回答している割合が高い。また、この5年間の変化は、成績上位層では、「なりたい職業」が「ある」の割合は4.0ポイント減（70.6% 66.6%）に対して、成績中位層では5.4ポイント減（61.8% 56.4%）、下位層では、9.2ポイント減（59.9% 50.7%）と成績が低い層ほど減少幅が大きくなっている。

しかし、中学生においては成績との関連はみられなくなり、調査年度における減少のみが際立っている。

高校生においても、高校偏差値層となりたい職業の有無との間に関連はみられない。また、この5年間で「なりたい職業」が「ある」と回答している割合は、進学校で16.7ポイント減（65.6% 48.9%）、中堅校で12.1ポイント減（67.1% 55.0%）、進路多様校では21.8ポイント減（68.7% 46.9%）と軒並み減少傾向にあり、とりわけ進路多様校においては減少幅が大きくなっている。

就職への重圧が大きくなると

「なりたい職業」を持ちづらくなる？

減少幅の大きかった高校生を、さらに高校偏差値層別・男女別でみたものが表4-2-3である。2004年から減少の割合がもっとも大きいのは進路多様校の男子で、23.9ポイントもの減少（63.1% 39.2%）となっている。

女子に注目してみると、進学校では18.5ポイント減（72.3% 53.8%）、中堅校では6.7ポイン

ト減（73.4% 66.7%）、進路多様校では19.7ポイント減（74.6% 54.9%）となっており、進学校と進路多様校の減少が大きくなっている。

また、中堅校と進路多様校においては、女子よりも男子のほうが「なりたい職業」が「ある」の割合が減少しているのであるが、進学校においては、男子15.2ポイント減（59.8% 44.6%）、女子18.5ポイント減（72.3% 53.8%）と女子の減少幅のほうが大きくなっている。

ここ最近では、急激な景気悪化による若年者の就職難、とりわけ高卒労働市場のさらなる不安定化が深刻になっている。こうした社会経済状況によって、若者の職業選択の幅が縮小されてきている。小・中学生は就職をまだ先のこととしてとらえることができるが、高校生、とくに進路多様校の生徒にとって、就職は目の前の問題である。こうした状況のもとで、就職を現実のものとして考えている生徒ほど、具体的な「なりたい職業」を持ちづらくなっている可能性も考えられる。

また女子にとっては、依然として就職には不利な状況が続いている昨今の状況を考えると、進学校のキャリアに対する意識の高い女子や、就職が目前にせまっている進路多様校の女子にとっても同様のことがいえるだろう。

「なりたい職業」の有無と進学希望の関係

さらに高校生に注目し、「なりたい職業」の有無による希望する進学段階の違いをみてみよう（表4-2-4）。

なりたい職業が「ない」と回答している高校生が希望している進学段階に注目すると、2009年で6割以上が「大学（四年制）まで」を希望しており、2004年から3.0ポイント増加している（59.6% 62.6%）、大学進学率が上昇し、大学へ行くことが珍しくなくなった社会に生きる高校生たちにとって、大学生活は将来を考える時間となっているのかもしれない。

図4-2-9 なりたい職業の有無（学校段階別・成績/高校偏差値層別、経年比較）

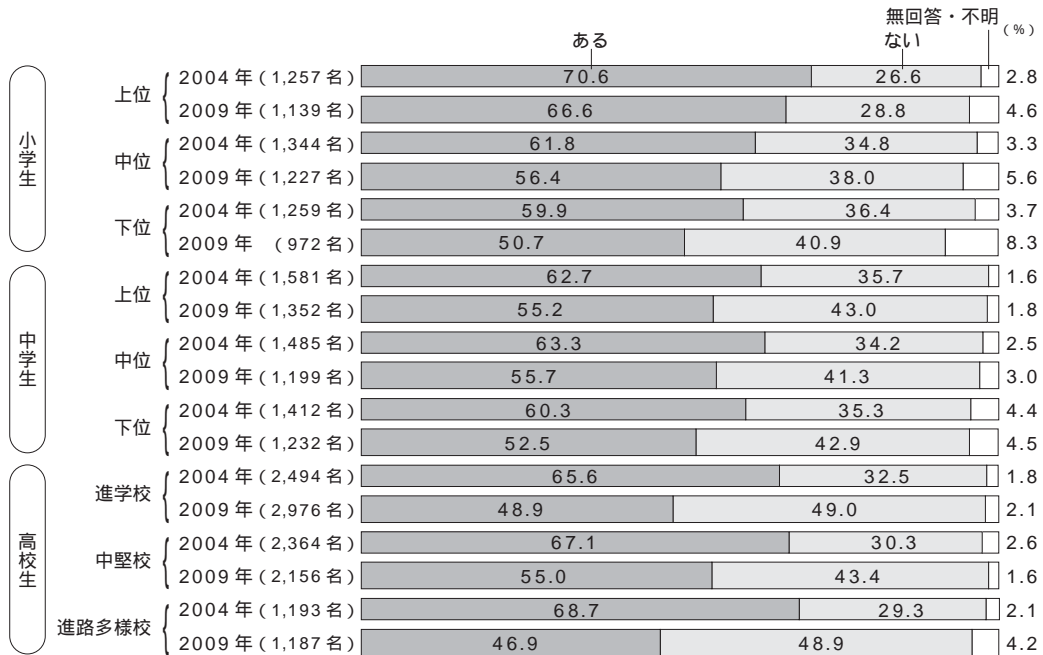


表4-2-3 なりたい職業の有無（高校生、高校偏差値層別・性別、経年比較）

	進学校		中堅校		進路多様校							
	男子	女子	男子	女子	男子	女子						
	2004年 (1,308名)	2009年 (1,569名)	2004年 (1,177名)	2009年 (1,404名)	2004年 (1,247名)	2009年 (1,138名)	2004年 (1,102名)	2009年 (1,015名)	2004年 (615名)	2009年 (599名)	2004年 (574名)	2009年 (586名)
ある	59.8	44.6	72.3	53.8	61.5	44.6	73.4	66.7	63.1	39.2	74.6	54.9
ない	38.1	53.2	26.3	44.1	35.2	53.7	24.8	31.7	35.3	56.6	22.8	40.8
無回答・不明	2.1	2.2	1.4	2.1	3.3	1.7	1.8	1.6	1.6	4.2	2.6	4.3

表4-2-4 なりたい職業の有無別にみた希望する進学段階（高校生、経年比較）

	2004年		2009年	
	なりたい職業ある (4,042名)	なりたい職業ない (1,877名)	なりたい職業ある (3,199名)	なりたい職業ない (2,972名)
高校まで	5.8	5.4	5.0	5.9
専門学校・各種学校まで	16.9	6.4	12.4	4.5
短期大学まで	3.7	2.1	3.3	1.2
大学（四年制）まで	51.3	59.6	53.9	62.6
大学院（六年制大学を含む）まで	16.0	9.3	17.8	10.5
その他	0.4	0.2	1.0	0.2
まだ決めていない	5.2	16.5	5.9	14.3
無回答・不明	0.6	0.5	0.8	0.8

4. 将来の職業について(2)

小・中学生の男子が、将来なりたい職業の上位は、「野球選手」「サッカー選手」で、スポーツ選手は不動の人気。小学生女子では、「ケーキ屋さん、パティシエ」の人气が急上昇。中・高校生の女子では「保育士・幼稚園の先生」が第1位となった。高校生男子では「学校の先生」「公務員」と堅実な職業が上位を占めている。2004年と同様、2009年においても、高校生になると男女とも現実的な職業が上位に入ってくる。中学生から高校生にかけてが、職業を現実的に考える分水嶺となっているようだ。

小学生のなりたい職業の変化

- 男子でスポーツ選手が不動の人気

小学生男子が将来なりたい職業には、「野球選手」「サッカー選手」が上位を占めた。これは2004年と同じ順位であり、スポーツ選手は不動の人気職業といえる。また、2009年では「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」が2004年の第14位から第7位に急上昇している。

女子では、「ケーキ屋さん・パティシエ」が2004年の第5位から第1位へと上昇した。ついで、「保育士・幼稚園の先生」「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」「看護師」と続いている(表4-2-5)。

中学生のなりたい職業の変化

- 女子で「医師」がランクイン

中学生男子においても「野球選手」「サッカー選手」といったスポーツ選手の人气が依然として高く、「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」も順位を上げて第3位となった。また、2009年では「調理師・コック」「大工」といった技能職や「研究者・大学教員」といった専門職、「コンピュータープログラマー・システムエンジニア」といった技術職が軒並み順位を上げて第10位以内にランクインしている。

女子では「保育士・幼稚園の先生」が第1位となっており、こちらも不動の人気の職業である。つづいて「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」「ケーキ屋さん・パティシエ」が

順位を上げて第2位、第3位となっている。またそれ以外の職業では、「医師」が2004年から大きく順位を上げて第10位以内に入ってきている(表4-2-5)。

高校生のなりたい職業の変化

- 男子で専門職、技術職が人気に

高校生の男子においては、「学校の先生」「公務員(学校の先生・警察官などは除く)」といった職業が2004年から継続して上位に入っている。また、「研究者・大学教員」といった専門職、「コンピュータープログラマー・システムエンジニア」といった技術職、「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」も大きく順位を上げている。

女子においては、2004年から順位に大きな変化はみられず、「保育士・幼稚園の先生」「学校の先生」「看護師」といった従来から女性が多く活躍している職業(=ピンクカラー職)の人气が依然として高くなっている(表4-2-5)。

「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」の人气が上昇

2009年の特徴をまとめてみよう。特徴的なのは、学校段階別、性別を問わず、「芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)」の人气が上昇していることである。ここ数年続いたお笑いブームの影響や、インターネット上で芸能人が自分の日常をブログなどで紹介したりしていることで、子どもたちがこうした職業を身近に感じる

ようになってきているのだろうか。

男女差をみてみると、小・中・高校生とも男子は従来から男性が多く就いてきた職業を、女子は女性が多く就いてきた職業を希望する割合が高いという傾向が依然として続いている。しかし、その中で、女子において「医師」が上昇

傾向にあり、今後の変化が期待される。

2004年と同様、2009年においても、高校生になると男女とも現実的な職業が上位に入ってくる。中学生から高校生にかけてが、職業を現実的に考える分水嶺となっているようである。

表4-2-5 「なりたい職業」ランキング(学校段階別・性別、経年比較)

小学生

男子				女子			
		%	順位(2004年)			%	順位(2004年)
1	野球選手	10.4	1	1	ケーキ屋さん・パティシエ	6.6	5
2	サッカー選手	6.3	2	2	保育士・幼稚園の先生	6.4	1
3	医師	2.0	3	3	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	4.7	4
4	研究者・大学教員	1.9	4	4	看護師	3.4	2
4	大工	1.9	4	5	デザイナー・ファッションデザイナー	3.3	11
4	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	1.9	7	6	医師	2.5	8
7	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.6	14	7	理容師・美容師	2.3	7
8	バスケット選手	1.4	9	7	マンガ家・イラストレーター	2.3	2
9	調理師・コック	1.3	8	9	学校の先生	2.2	6
9	会社員	1.3	12	10	ペットショップ	1.8	12

中学生

男子				女子			
		%	順位(2004年)			%	順位(2004年)
1	野球選手	4.6	1	1	保育士・幼稚園の先生	9.5	1
2	サッカー選手	3.4	2	2	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	5.6	4
3	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.7	8	3	ケーキ屋さん・パティシエ	3.5	8
4	学校の先生	1.6	3	4	看護師	2.9	2
5	調理師・コック	1.5	11	5	マンガ家・イラストレーター	2.8	3
6	研究者・大学教員	1.4	11	6	デザイナー・ファッションデザイナー	2.5	9
6	医師	1.4	4	7	動物の訓練士・飼育員	2.1	7
6	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	1.4	5	7	理容師・美容師	2.1	5
9	ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	1.1	8	9	学校の先生	1.8	6
10	コンピュータープログラマー・システムエンジニア	1.0	13	10	医師	1.2	圏外
10	大工	1.0	15				

高校生

男子				女子			
		%	順位(2004年)			%	順位(2004年)
1	学校の先生	4.7	1	1	保育士・幼稚園の先生	5.3	2
2	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	3.6	2	2	学校の先生	5.1	1
3	研究者・大学教員	2.7	7	3	看護師	4.8	3
4	医師	2.3	3	4	薬剤師	2.9	4
5	コンピュータープログラマー・システムエンジニア	1.7	12	5	理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士	2.4	5
6	警察官	1.4	6	6	公務員(学校の先生・警察官などは除く)	2.3	6
6	薬剤師	1.4	5	6	医師	2.3	7
8	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.3	11	8	芸能人(俳優・声優・お笑いタレントなど)	1.5	12
9	理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士	1.1	4	9	栄養士	1.3	8
9	技術者・エンジニア	1.1	8	10	カウンセラー・臨床心理士	1.2	10
9	法律家(弁護士・裁判官・検察官)	1.1	9				

注1) は2004年から5つ以上順位が変化した職業。

注2) 将来なりたい職業名を具体的に書いてもらった結果を分類して作成した。明確な職業名に分類できないものは除外してある。また、比率(%)はなりたい職業が「ない」と回答した人や無回答だった人も母数に含めている。

5. 将来の職業について(3)

全体的に、中・高校生ともに大きな変化はみられない。「安定していて長く続けられる」「自分の好きなことがいかにせる」ことを重視しており、職業選択における安定志向、好きなこと志向が継続している。一方、「独立して自分だけでできる」を重視している割合は2004年同様、7項目中でもっとも低く、2009年ではさらに減少傾向にある。最近の不況や不安定な労働市場の状況を反映し、子どもたちの職業に対する安定志向の強まりや独立志向の低下といった動きがみられる。

職業選択における安定志向が継続

この5年間で、子どもたちが職業を選択する際に重視するポイントに変化はあったのだろうか。2009年では2004年と同じく、職業を選択する際に重視することを7項目あげて、回答を求めている。学校段階別に経年比較をした結果を図4-2-10に示した。

全体的に、中・高校生ともに大きな変化はみられない。「安定していて長く続けられる」「自分の好きなことがいかにせる」ことを重視している割合が、2004年と同じく9割以上となっており、職業選択における安定志向、好きなこと志向が継続している。加えて「大きな会社である」ことを重視する割合が、中学生で5.3ポイント(2004年47.2% 2009年52.5%、以下同)高校生で9.0ポイント(41.4% 50.4%)増加しており、中・高校生とも大きな企業で安定した職業に就くことを希望している。

一方、「独立して自分だけでできる」を重視している割合は2004年同様、7項目中でもっとも低く、2009年ではさらに微減傾向にある。最近の不況や不安定な労働市場の状況を反映してか、子どもたちの職業に対する安定志向の強まりや独立志向の低下といった動きがみられる。

女子の大企業志向が増加

職業を選択する際に重視することについて、学校段階別、性別で経年比較を行った結果を図4-2-11と図4-2-12に示した。まず、

この5年間の変化に注目すると、中・高校生の男女とも「大きな会社である」ことを重視するようになっている。とくに女子においてその傾向が強くみられ、中学生女子で7.2ポイント増(42.2% 49.4% :「とても大切」+「まあ大切」の合計、以下同)高校生女子で8.7ポイント増(38.6% 47.3%)となっている。一方、「独立して自分だけでできる」を重視している割合は、女子で低下が大きくなっている。とりわけ中学生女子で5.7ポイント減(35.4% 29.7%)となっている。

次に性別に注目してみると、中・高校生とも、男女で大きな差はみられず、「安定していて長く続けられる」「自分の好きなことがいかにせる」が高い割合となっている。

しかし、「とても大切」と「まあ大切」を分けて細かくみていくと、職業選択に際して「収入が多い」ことを「とても大切」と回答している割合は、2009年を例にすると、男子が40.1%、女子が28.9%でその差は11.2ポイントとなっている。同様に「大きな会社である」ことを「とても大切」と回答している割合は男子で19.3%、女子で11.7%(いずれも2009年)となっており、7.6ポイントの差となっている。男子においては、収入や大企業といった経済的安定志向が女子よりも強くなっており、将来の家庭の経済的側面を担うという一般的な性役割の構図を反映しているものと考えられる。

図4-2-10 職業を選択する際に重視すること(中・高校生、経年比較)

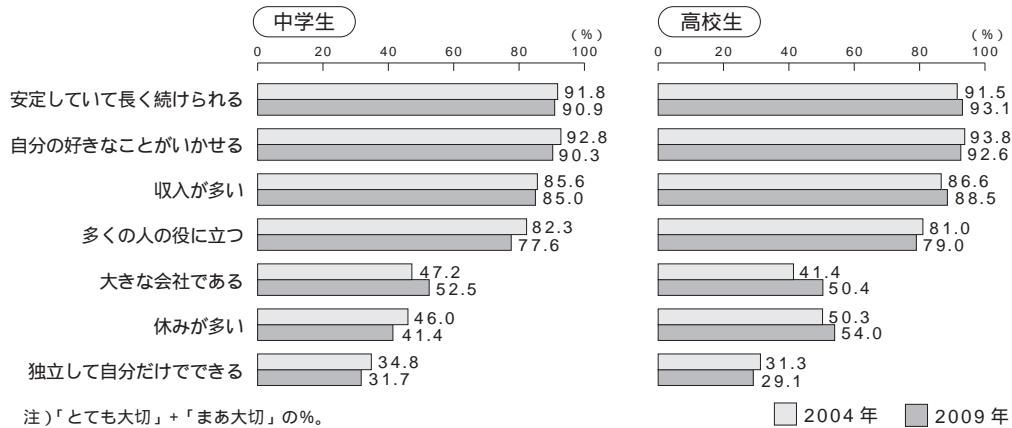


図4-2-11 職業を選択する際に重視すること(中学生、性別、経年比較)

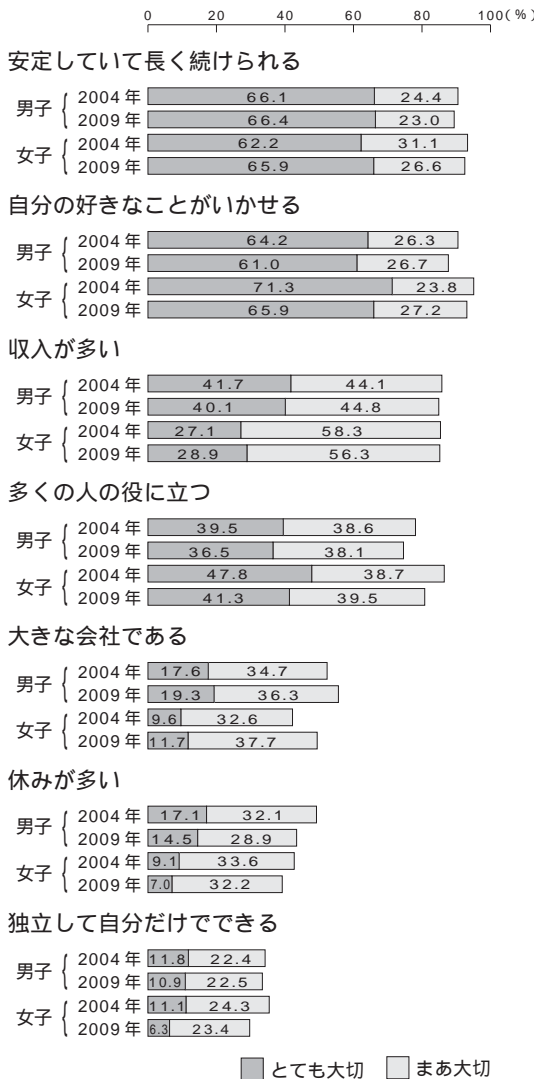
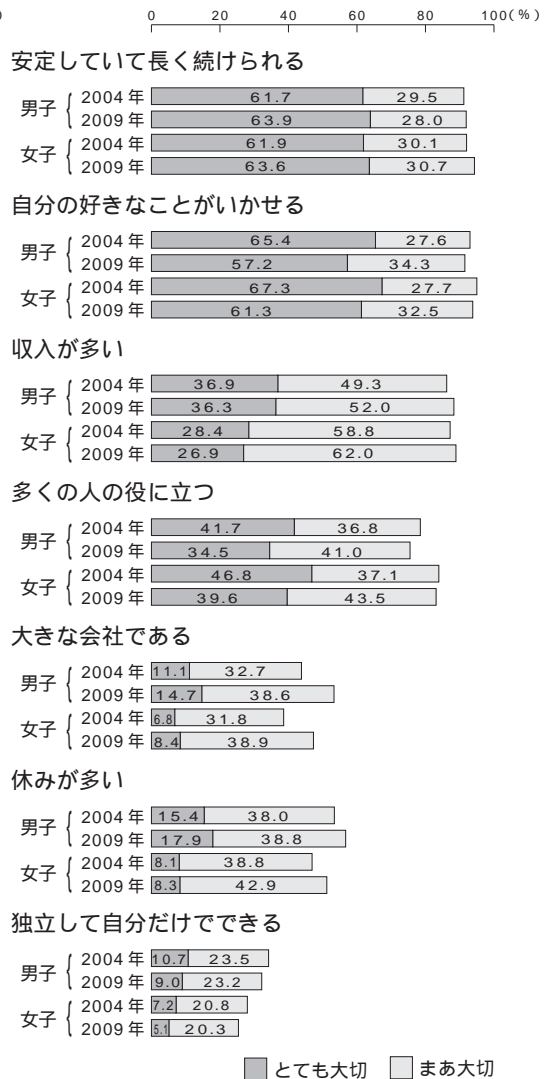


図4-2-12 職業を選択する際に重視すること(高校生、性別、経年比較)



アンケートのお願い

最初に、ふだんの生活についてお聞きします。

2 平日（学校がある日）の「朝、起きる時間」と「夜、寝る時間」は、たいたい何時ごろですか。

(1) 朝、起きる時間

6時より前	6時ごろ	6時30分ごろ	7時ごろ	7時30分ごろ	8時ごろ	8時よりあと
1	2	3	4	5	6	7

(2) 夜、寝る時間

10時より前	10時ごろ	10時30分ごろ	11時ごろ	11時30分ごろ	12時ごろ	12時30分ごろ	1時ごろ	1時30分ごろ	2時ごろ	2時よりあと
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

あなたはカレーライスが好きですか。

とても好き	好き	ふつう	きらい	とてもきらい
1	2	3	4	5

あなたが、もしカレーライスを「好き」だと思ったら、上のように番号のところを でかこんでください。

1 はじめに、あなたのことを教えてください。

- (1) 学校の名前は..... () 小学校・中学校・高等学校
- (2) 学年は..... () 年
- (3) 性別は..... 1. 男子 2. 女子 (をつける)

回答のしかた

あなたはカレーライスが好きですか。

とても好き	好き	ふつう	きらい	とてもきらい
1	2	3	4	5

あなたが、もしカレーライスを「好き」だと思ったら、上のように番号のところを でかこんでください。

3 毎日の食事のなかで、次のようなことはどれくらいありますか。

1) 朝食をとらないで学校に行く.....	よくある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
2) 夕食を一人だけで食べる.....	1	2	3	4
3) スーパーやコンビニのお弁当を食べる.....	1	2	3	4
4) 好きなものだけを食べて、嫌いなものを残す.....	1	2	3	4
5) テレビを見ながら食事をする.....	1	2	3	4
6) 栄養ドリンクやサプリメント (栄養をつけるための薬) を飲む.....	1	2	3	4
7) ダイエットのために食べる量を減らす.....	1	2	3	4
8) おなかがすいていなくても無理に食べてしまう.....	1	2	3	4
9) 食事の時間を楽しいと思う.....	1	2	3	4

4 平日（学校がある日）の放課後に、あなたはどのようなところで遊びますか。

1) 自分の家.....	よく遊ぶ	ときどき遊ぶ	あまり遊ばない	ぜんぜん遊ばない
2) 友だちの家.....	1	2	3	4
3) 学校の教室.....	1	2	3	4
4) 学校の運動場 (校庭や体育館).....	1	2	3	4
5) 公園や広場など.....	1	2	3	4
6) 自然のあるところ (海や山、川、森など).....	1	2	3	4
7) 児童館や図書館などの公共施設.....	1	2	3	4
8) 本屋やビデオ屋.....	1	2	3	4
9) コンビニやスーパーなどの近所のお店.....	1	2	3	4
10) ゲームセンターやカラオケ.....	1	2	3	4
11) ファーストフード店やファミリーレストラン.....	1	2	3	4
12) デパートなどがある繁華街 (大きな街).....	1	2	3	4

5 あなたは、ふだん次のようなことをどれくらいしますか。1日のだいたい時間を答えてください。

(1) テレビやビデオ(DVD)を見る

ほとんど しない	15分 以下	30分 以下	45分 以下	1時間 以下	1時間30分 以下	2時間 以下	2時間30分 以下	3時間 以下	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

(2) テレビゲームで遊ぶ(パソコンゲーム、携帯型ゲーム機、携帯電話のゲームを含む)

ほとんど しない	15分 以下	30分 以下	45分 以下	1時間 以下	1時間30分 以下	2時間 以下	2時間30分 以下	3時間 以下	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

6 生活の中できこについてお聞きします。

(1) あなたは、ふだん次のようなことをするものがどれくらいありますか。

	よくある	ときどきある	あまりない	ぜんぜんない
1) マンガや雑誌を読む.....	1	2	3	4
2) 本(マンガや雑誌以外)を読む.....	1	2	3	4
3) 新聞の記事を読む.....	1	2	3	4
4) テレビのニュース番組を見る.....	1	2	3	4
5) 日記をつける.....	1	2	3	4
6) 家の手伝いをする.....	1	2	3	4
7) 体を使って遊ぶ(スポーツなど).....	1	2	3	4
8) ボランティア活動をする.....	1	2	3	4

(2) あなたは、小さいころから今までに次のような経験をしたことがどれくらいありますか。

	たくさん あった	ときどき あった	あまり なかった	ぜんぜん なかった
1) 赤ちゃんをだっこしたこと.....	1	2	3	4
2) 果物の皮を包丁でむいたこと.....	1	2	3	4
3) のごぎりを使って物を作ったこと.....	1	2	3	4
4) 本やテレビで感動して泣いたこと.....	1	2	3	4
5) 友だちと本気でけんかしたこと.....	1	2	3	4
6) 親が働いている姿を見たこと.....	1	2	3	4
7) 地域のお祭りやイベントに参加したこと.....	1	2	3	4
8) 海や山で遊んだこと.....	1	2	3	4
9) かくれんぼやおにぎりをつくって遊んだこと.....	1	2	3	4
10) 虫をつかまえて遊んだこと.....	1	2	3	4
11) 親に本を読んでもらったこと.....	1	2	3	4
12) 親に美術館や博物館に連れて行ってもらったこと.....	1	2	3	4

7 放課後の生活についてお聞きします。

(1) あなたは、学校で部活動に参加していますか。あてはまる番号「□」に をつけてください。
(2つ以上の部活動に参加している人は、熱心なほうを答えてください)【中学生・高校生のみ】

- 1. 運動部に入っている
- 2. 文化部に入っている
- 3. 運動部に入っているがやめた
- 4. 文化部に入っているがやめた
- 5. 部活動に入ったことはない..... (2)へ進んでください。

SQ「1.-4.」に をつけた人にお聞きします。
SQ1) 部活動は、週に何日くらい活動していますか(いましたか)。

ほとんど 活動していない	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日(毎日)
1	2	3	4	5	6	7	8

SQ2) 部活動では、1回あたり何時間くらい活動をしていますか(いましたか)。

ほとんど 未満	1時間 以下	1時間30分 以下	2時間 以下	2時間30分 以下	3時間 以下	3時間30分 以下	4時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8
							9

(2) あなたは、アルバイトをしていますか。

あてはまる番号に をつけ、している人は日数を書いてください。【高校生のみ】

- 1. 現在、している.....月に()日くらい
- 2. したことはあるが、現在はしていない
- 3. したことがない

勉強についてお聞きします。

8 あなたはふだん家でどれくらい勉強していますか。

(1) 平日(学校がある日)の家の勉強時間(塾や予備校で勉強する時間をのぞく)

ほとんど しない	15分 以下	30分 以下	45分 以下	1時間 以下	1時間30分 以下	2時間 以下	2時間30分 以下	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8	9
								10

(2) 休日(学校がない日)の家の勉強時間(塾や予備校で勉強する時間をのぞく)

ほとんど しない	15分 以下	30分 以下	45分 以下	1時間 以下	1時間30分 以下	2時間 以下	2時間30分 以下	3時間 以上
1	2	3	4	5	6	7	8	9
								10

9 あなたは、学校以外で次のような勉強をしていますか。あてはまる番号すべてに をつけてください。
あてはまるものがない場合は 断 に進んでください。

1. 家庭教師についている
2. 通信教育を受けている
3. 英会話などの語学教室に行っている
4. 計算や書きとりなどのプリント教材教室に行っている
5. 学習塾や予備校に行っている

SQ 「5. 学習塾や予備校に行っている」に をした人にお聞きします。

SQ1) その学習塾(予備校)は、週に何日行っていますか。

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日(曜日)
1	2	3	4	5	6	7

SQ2) その学習塾(予備校)では、1回に何時間くらい勉強していますか。

1回のだいたい時間を答えてください。

1時間未満	1時間	1時間30分	2時間	3時間	3時間30分	4時間	4時間以上
1	2	3	4	5	6	7	8 9

SQ3) その学習塾(予備校)は、どのような塾ですか。もっとも近いものを1つ選んで、番号に をつけてください。

1. 中学校を受験するための進学塾【小学生】
高校を受験するための進学塾【中学生】
大学を受験するための進学塾【高校生】
2. 学校の勉強がわかるようになるための補習塾
3. その他(具体的に:)

呀 あなたは勉強の取り組み方について、次のようなことがあてはまりますか。

	とてもそう	まあそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1) 勉強しようという気持ちがわからない	1	2	3	4
2) どうしてこんなことを勉強しなければならないのかと思う	1	2	3	4
3) 上手な勉強の仕方がわからない	1	2	3	4
4) わからないことがあったとき、質問できる人がいない	1	2	3	4
5) 学校の先生が自分をどう評価しているか気になる	1	2	3	4
6) 今までにもっともときちんと勉強しておけばよかったと思う	1	2	3	4
7) わからないことがあると「もっと知りたい」と思う	1	2	3	4
8) 親に言われなくても自分から勉強する	1	2	3	4
9) 問題を解いた後は答え合わせをする	1	2	3	4
10) テストで間違えた問題をやり直す	1	2	3	4
11) 他にやりたいことがあってもがまんして勉強する	1	2	3	4
12) 受験を目標にして勉強する	1	2	3	4
13) 資格試験や検定試験(英検、漢検など)を受けるための勉強をする	1	2	3	4
14) 定期テストはしっかりと準備をしておく【中学生・高校生のみ】	1	2	3	4

物 あなたは次のようなことが得意ですか、苦手ですか。

	とても得意	やや得意	やや苦手	とても苦手
1) スポーツをしたり、体を動かしたりすること	1	2	3	4
2) 楽器を演奏したり歌を歌ったりすること	1	2	3	4
3) 物を作ったり絵を描いたりすること	1	2	3	4
4) パソコンを使うこと	1	2	3	4
5) 勉強の計画を立てること	1	2	3	4
6) 自分で立てた勉強の計画を守ること	1	2	3	4
7) わからないことや知らないことを調べること	1	2	3	4
8) 他の人が強いつけないアイデアを出すこと	1	2	3	4
9) 論理的に(すし道を立てて)ものを考えること	1	2	3	4
10) 難しい問題をじっくり考えること	1	2	3	4
11) 問題の解き方を何通りも考えること	1	2	3	4
12) ものを覚えること	1	2	3	4
13) 自分の考えを文章にまとめること	1	2	3	4
14) 自分の考えをみんなの前で発表すること	1	2	3	4
15) リーダーとしてグループをまとめること	1	2	3	4

臣 あなたが勉強しているのは、どうしてですか。勉強する理由について、あてはまる番号に をつけてください。

	とてもそう	まあそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1) 問題が解けるとうれいから	1	2	3	4
2) いろいろな考え方を身につけることができるから	1	2	3	4
3) 小学生のうちは勉強しないとダメだから【小学生】 中学生のうちは勉強しないとダメだから【中学生】 高校生のうちは勉強しないとダメだから【高校生】	1	2	3	4
4) 勉強しないと頭が悪くなるから	1	2	3	4
5) 成績が悪いと親にしかられるから	1	2	3	4
6) 成績が悪いと親がほめてくれるから	1	2	3	4
7) 友だちに負けたくないから	1	2	3	4
8) いい中学校や高校に入りたから【小学生】 いい高校や大学に入りたから【中学生】 いい大学に入りたから【高校生】	1	2	3	4
9) 自分がつきたい仕事につくのに必要だから	1	2	3	4
10) 今までできなかったことができるようになるから	1	2	3	4

級 あなたの今の成績は、学年の中でどのくらいですか。

	下のほう	真ん中より下	真ん中くらい	真ん中より上	上のほう
1) 国語	1	2	3	4	5
2) 算数【小学生】	1	2	3	4	5
3) 理科	1	2	3	4	5
4) 社会	1	2	3	4	5
5) 英語【中学生・高校生のみ】	1	2	3	4	5

親や友だちとの関係についてお聞きします。

友 親との関係についてお聞きします。

(1) あなたは次のようなことについて、お父さんやお母さんとのくらくらい話をしますか。
 1)~5)のそれぞれについて、あてはまる番号に をつけてください。
 お父さんやお母さんがいない人はその部分をどばしてください。

	お父さんとの会話		お母さんとの会話	
	よく話をする	あまり話をしない	よくときどき話をする	あまり話をしない
1) 学校のできごとについて	1	2	3	4
2) 勉強や成績のことについて	1	2	3	4
3) 将来や進路のことについて	1	2	3	4
4) 友だちのことについて	1	2	3	4
5) 社会のできごとやニュースについて	1	2	3	4

(2) 親との関係について、次のようなことはあてはまるものをすべて選んで、番号に をつけてください。

- 勉強を教えてくれる
- いいことをしたときにほめてくれる
- 悪いことをしたときにしかつてくれる
- 困ったときに相談のつてくれる
- あなたのことを大人として扱ってくれる
- いつも「勉強しなさい」と言う
- 何でもすぐ口出しをする
- 約束したことを守ってくれない
- 考えをおしつける
- お父さんとお母さんの意見が違って困る

研 友だちとの関係についてお聞きします。

(1) 次のような友だちは、全部で何人くらいいますか。

	いない	1人	2~3人	4~6人	7~10人	11~20人	21人以上
1) 日ごろよく話をしたり一緒に遊んだりする友だち	1	2	3	4	5	6	7
2) 悩みごとを相談できる友だち	1	2	3	4	5	6	7

(2) 友だちとの関係について、次のようなことはどのくらいありますか。

	とてもそう	まあそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1) 違う意見をもった人とも仲よくできる	1	2	3	4
2) 友だちといつも一緒にいたい	1	2	3	4
3) 友だちが悪いことをしたときに注意する	1	2	3	4
4) 仲間はすれにされないように話を合わせる	1	2	3	4
5) グループの仲間同士で固まっていたい	1	2	3	4
6) 友だちと話が合わないと感じる	1	2	3	4
7) 年齢や性別の違う人と話するのが楽しい	1	2	3	4
8) 友だちとのやりとりで構うことが多い	1	2	3	4

(3) 今、つきあっている異性(彼氏や彼女)がいますか。1)選んで、番号に をつけてください。

【中学生・高校生のみ】

- いる
- 以前はいたが今はいない
- いたことがない

パソコンや携帯電話(ケータイ)についてお聞きします。

研 パソコンについてお聞きします。

(1) あなたは、1)週間にどれくらいパソコンを使いますか。

	週に6日以上	週に3~4日	週に1~2日	ほとんど使わない	家にはない
1) 家で	1	2	3	4	5
2) 学校で	1	2	3	4	

(2) パソコンは、どのように使うことが多いですか。あてはまるものをすべて選んで、番号に をつけてください。

- 文庫を書く
- 絵を描く
- ゲームをする
- テレビやDVDを見る
- インターネットで勉強のことを調べる
- インターネットで趣味や遊びのことを調べる
- 学習ソフトを使って勉強する
- ホームページやブログを作る
- 電子メールをやりとりする
- ネットショッピングをする
- その他(具体的に:)

(3) パソコンについて、次のようなことはあてはまりますか。

	とてもそう	まあそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1) パソコンで調べたことについて親とよく話を	1	2	3	4
2) パソコンがないと今の生活が不便になると思	1	2	3	4
3) パソコンを使うのが楽しい	1	2	3	4
4) パソコンをもっと使いになりたい	1	2	3	4
5) インターネットの使い方についてのマナーやルールを知っている	1	2	3	4

※ あなたは、次のようなことについての程度満足していますか。【小学生のみ】

	とても満足 している	まあ満足 している	あまり満足 していない	ぜんぜん満足 していない
1) 現在の自分の成績	1	2	3	4
2) 自分の性格	1	2	3	4
3) 家族との関係	1	2	3	4
4) 友だちとの関係	1	2	3	4
5) 学校の先生との関係	1	2	3	4
6) 自分が通っている学校	1	2	3	4
7) 自分が住んでいる地域	1	2	3	4
8) 今の日本の社会	1	2	3	4

将来のことについてお聞きします。

※ あなたは私立中学校や国立中学校、公立中高一貫校を受けると考えていますか。【小学生のみ】

- (1) 私立中学校や国立中学校 1. 受ける 2. 受けない 3. まだ決めていない
 (2) 公立の中高一貫校 1. 受ける 2. 受けない 3. まだ決めていない

※ あなたは、将来、どの学校まで進みたいと思いますか。あてはまる番号を「」選んで、番号に
つけてください。

1. 中学校まで【小学生・中学生のみ】 6. 大学院（六年制大学を含む）まで
 2. 高校まで 7. その他（具体的に：
 3. 専門学校・各種学校まで 8. まだ決めていない
 4. 短期大学まで
 5. 大学（四年制）まで

※ あなたが40歳くらいになったとき、次のようなことをしていると思いますか。

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1) お金持ちになっている	1	2	3	4
2) 自由にのんびり暮らしている	1	2	3	4
3) 世界で活躍している	1	2	3	4
4) 多くの人の役に立っている	1	2	3	4
5) 有名人になっている	1	2	3	4
6) 子どもを育てている	1	2	3	4
7) 親を大切にしている	1	2	3	4
8) 幸せになっている	1	2	3	4

※ 携帯電話（ケータイ）についてお聞きします。
 あなたは携帯電話（ケータイ）を持っていますか。
 1. 持っている 2. 持っていない..... 岐へ進んでください。

SQ1「1. 持っている。」と答えた人にお聞きします。
 SQ1) 1日のうちで携帯電話（ケータイ）をどのくらい使いますか。

	ほとんど 使わない くらい	1-2回 くらい	3-5回 くらい	6-10回 くらい	11-20回 くらい	21-50回 くらい	51回 以上
1) 家族にかける電話	1	2	3	4	5	6	7
2) 家族に送るメール	1	2	3	4	5	6	7
3) 友だちにかける電話	1	2	3	4	5	6	7
4) 友だちに送るメール	1	2	3	4	5	6	7
5) インターネット	1	2	3	4	5	6	7

SQ2) 携帯電話（ケータイ）について、次のようなことはあてはまりますか。

	とても そう	まあ そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1) 携帯電話を使うのが楽しい	1	2	3	4
2) 携帯電話がないと今の生活が不便になると思う	1	2	3	4
3) 電話やメールがこないとさみしくなる	1	2	3	4
4) 何もすることがなくなると、すぐに携帯電話を見よう	1	2	3	4
5) 余ったことがない人と電話やメールでやりとりをする	1	2	3	4
6) 食事しながら携帯電話を使う	1	2	3	4
7) ブログや掲示板などに書き込みをする	1	2	3	4

あなた自身のことについてお聞きします。

※ あなた自身のことについて、次のようなことはあてはまりますか。

	とても そう	まあ そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1) 自分のことは、できるだけ自分でできるようにしている	1	2	3	4
2) やる気になれば、どんなことでもできる	1	2	3	4
3) きまりやルールをきちんと守るほうだ	1	2	3	4
4) いやなことがあっても、すぐに忘れる	1	2	3	4
5) 自分の外見（顔やスタイル）が気に入る	1	2	3	4
6) 好きで、熱中していることがある	1	2	3	4
7) カット盛りやすい	1	2	3	4
8) つかれやすい	1	2	3	4
9) 運がよい	1	2	3	4
10) 早く大人になりたい	1	2	3	4
11) つまらないことですぐに落ち込む	1	2	3	4
12) ねばり強く最後まで続けるほうだ	1	2	3	4

六 将来、結婚するとしたら、家事（料理、掃除、洗濯など）や育児はだれが行うのがよいと思いますか。

1. 夫（男の人）が中心に行う
2. 夫（男の人）と妻（女の人）が同じくらい行う
3. 妻（女の人）が中心に行う
4. 結婚するつもりはない
5. 考えたことがない

七 将来の職業（仕事）についてお聞きします。

（1）あなたには、将来なりたい職業はありますか。

1. ある
2. ない

SQ「1.ある」と答えた人にお聞きします。

SQ1) あなたが一番なりたい職業を、具体的に書いてください。

（2）職業を選ぶとしたら、あなたは次のようなことをどれくらい大切に考えますか。

【中学生・高校生のみ】

	とても 大切	まあ 大切	あまり 大切でない	ぜんぜん 大切でない
1) 収入が多い.....	1	2	3	4
2) 大きな会社である.....	1	2	3	4
3) 自分の好きなことがいける.....	1	2	3	4
4) 多くの人の役に立つ.....	1	2	3	4
5) 独立して自分だけでできる.....	1	2	3	4
6) 休みが多い.....	1	2	3	4
7) 安定していて長く続けられる.....	1	2	3	4

よろしければ、最後にあなたの家のことについて教えてください。

八 あなたの家のことについてお聞きします。

（1）あなたのお母さんはお仕事をしていますか。1つ選んで、番号に をつけてください。
いない場合は（2）に連んでください。

1. 常勤（朝から夕方まで仕事をしている）
2. パートタイム（パートやアルバイトの仕事をしている）
3. 専業主婦（たいてい家にいて家族の世話をしている）

（2）あなたの家について、次のようなことは、あてはまりますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に をつけてください。

1. 家でお父さんはパソコンを使う
2. 家でお母さんはパソコンを使う
3. 家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある
4. 親は毎日、新聞を読んでいる
5. 自分ひとりの勉強部屋を持っている
6. お父さんは大学や短期大学を卒業している
7. お母さんは大学や短期大学を卒業している
8. おじいさんやおばあさんと一緒に住んでいる
9. きょうだいがいる

これで質問は終わりです。ご協力くださいます。ありがとうございます。